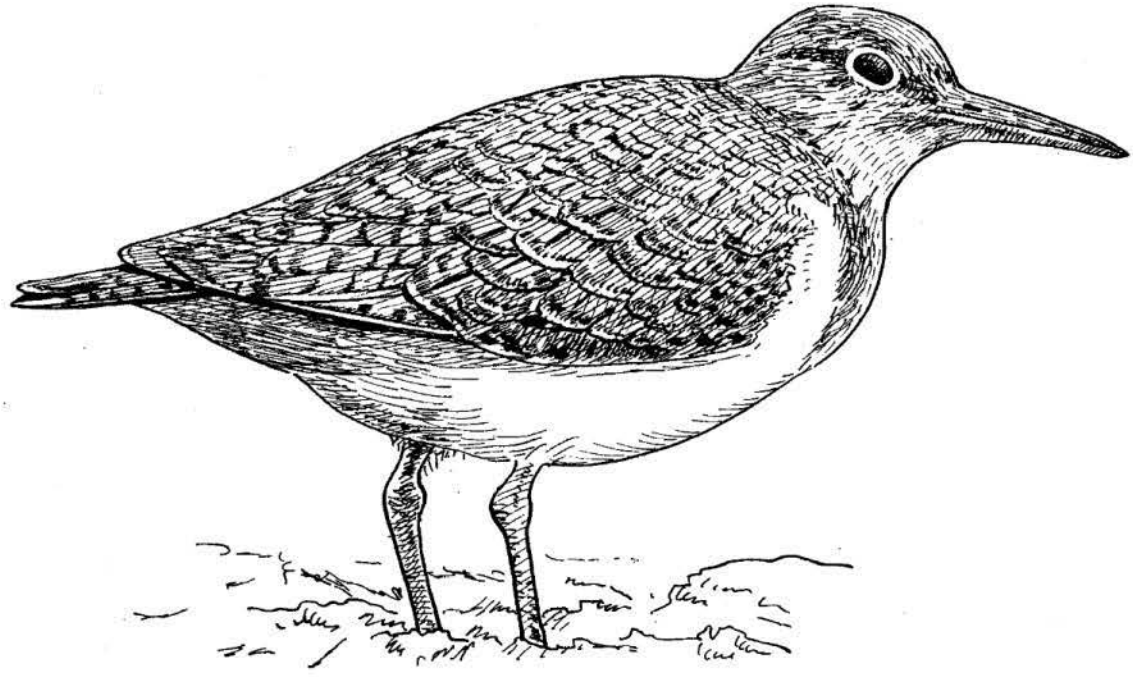
しろちどり

第44号

特集：三重県の川



2004年9月

日本野鳥の会 三重県支部

心の古里

村田芳雄（桑名市・理事）

5月8日探鳥会で御池岳へ行ってきました。余り無理をせずカタクリ峠で昼食をとりました。森の中の落ち葉の上に腰を下ろし、鳥の声に耳を傾け、風の音を聞きながら、木の葉の間からもれる緑の光を楽しんでいました。やがてジュウイチの鳴き声が聞こえ、新緑の樹冠の梢の間を翼を翻して飛ぶジュウイチの姿を見ることが出来ました。やがて大阪から来たと言う中年の婦人の方達が大勢上がってきました。130人位だと言っていました。今までになかったことです。静かだった御池岳も「荒らされる時が来たのか」と、宝物が失われていくような気がしました。

私が一番心やすらぐ光景は、夕方まだ日が明るい里山の坂道を歩いている時、東の空にまんまるいお月さんが林の上にぽっかりと浮かんでいるのを見るときです。私は小学校は伊勢市です。その小学校の窓から神宮の山の上に3本杉が見えました。あそこへ行ってみたいなあと、いつも思っていました。高校生になってから、宮崎文庫から山裾を廻りこみ、少し行った所から大方の見当をつけて登って行きました。その頃、国語の先生から宿題として短歌を作ってくるように言われていました。帰り道次の様な短歌を作りました。

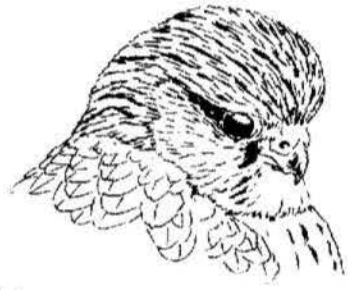
山間の田の間の畦にたつぴ鳴き
夕日あかあかこの日暮るるも

その頃はタニシが鳴くと思っていました。そんな時も東の空にはまんまるいお月さんがかかっていたのだと思います。昔、宮崎文庫の奥の小川や田んぼによく鮒釣りに行きました。家路につく頃、東の空にはまんまるいお月さんがよく出ていたものです。今は住宅地になっています。

私が大人になってからも自然に惹きつけられる

目　　次

巻頭エッセイ・表紙の言葉 ----------2
特集：三重県の川
特集にあたって ----------3
海蔵川 ----------4
中村川 ----------5
河畔林に守られた川、安濃川 ----------6
「かわづくり会議みえ」の
一年間を振り返って ----------9
員弁川 ----------10
私のフィールド鈴鹿川 ----------11
三滝川上流域 ----------12
調査・研究のページ
津市御殿場海岸の珍客 ----------13
2004年ホトトギス初認記録 ----------15
鳥々図鑑 ----------16
今日も鳥日和 ----------17
会員のページ ----------18
アートギャラリー ----------20
支部活動のページ ----------21
理事紹介 ----------30
探鳥会報告 ----------31
編集後記 ----------34



チョウゲンボウ

表紙の言葉

イソシギ

田中豊成

伊賀地方でシギ類はあまり見られませんが，イソシギは河川で周年見られ，繁殖しているようです。

地味な鳥ではあるけど、翼角に食い込んだ白が他のシギとの識別点ですね。それに，お尻を上下にふりふりして愛嬌があり，私にとっては親しみやすい鳥のひとつです。

のは、子供の頃自然の中で遊んだ体験があるからなのでしょう。大阪から御池岳へ来たおばさん達が、私達の誰かが「大阪には金剛山があるじゃないですか」と言ったら、「私達も御池岳を見たいのです」と言っていました。中年以上の人達ばかりで若い人は居ませんでした。山へ入ると中高年ばかりで、若い人はたまにしか見かけなくなりました。子供達から自然を奪ってしまったからではないのでしょうか。今の子供達が大人になってからふと振り返って、心の安らぎを得られるような物は在るのでしょうか。若い人達の中には静なのは気味が悪いと言う人が少なくありません。テレビゲームやプラスチックの玩具等、非自然的な物で取り囲まれ育った子供達は、大人になってから、ふと安らげる心の古里を見つけることが出来るのでしょうか。この事を考えると不安になってきます。物質的には豊かでもhumanな心をなくした殺伐とした大人に成って行くのではないでしょうか。

今、子供達に自然を体験させる取り組みがいろいろ工夫され、あちこちで始まって来ています。私達も子供達や若い人達と一緒に鳥を見て、彼らに自然のすばらしさを感じてもらえるように、より一層取り組みを強めて行かなければならないと思います。

特集三重県の川にあたって

今回は三重県の川を特集しました。「しろちどり」では2000年2月（26号）に川の特集を組んでいます。川は平野部でほとんど唯一といってよいほど今でも自然あるいは半自然状態が保たれている場所です。しかし、その場所も護岸工事で、コンクリートの巨大な「どぶ」になった所が少なくありません。近年はそれだけでなく、河川敷公園や整備の名のもとに河畔林が伐採され、庭園樹を植えられたり、芝生にされたりしています。我々支部会員が把握している三重県下の川の状況をまとめてみました。また会員外の方からも原稿を寄せていただきました。皆さんも近くの川の野鳥や生物の様子を調べてみませんか？ひとしれず消えてゆく生物があるかもしれません。またきっと新しい発見があるでしょう。

櫛田川や宮川については「しろちどり」26号を参考にしてください。雲出川の本流については支部の活動があまり及んでいません。

なお川の「右岸」、「左岸」は川下に向かって立った時の右が右岸、左が左岸です。また「頭首工」とは用水などを分けるための堰のことです。

編集部

海蔵川

尾畑玲子（四日市市）

海蔵川は四日市市の北部を流れる２級河川です。三重郡菰野町千草の鈴鹿山脈のふもとを水源とし、四日市市霞ヶ浦で伊勢湾に流れ出る全長約20ｋｍの、どこにもあるような普通の川…です。

三重県内の多くの川で見られるような問題をこの川もかかえています。それは河川改修による生態系の破壊…。まずはその河口から遡ってみましょう。

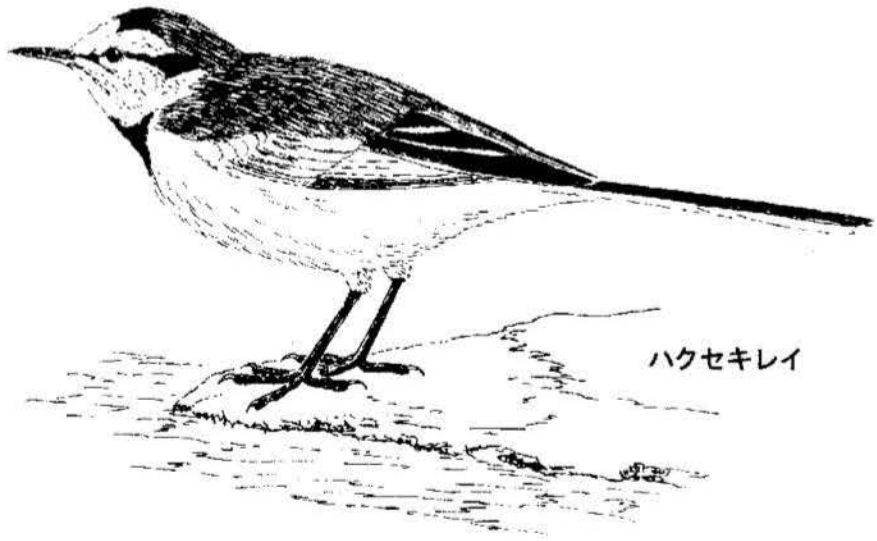
河口付近は霞ヶ浦埋立地の石油コンビナートがあり、ＪＲ、近鉄線、国道23号，１号がまたぐ、といえば想像がつくことでしょう。このあたりの海蔵川は川ではなく、排水路です。両岸はコンクリートでかためられテトラポットがびっしり並べられています。テトラポットと砂地にいるエサを目当てにイソヒヨドリやツグミ、ハクセキレイがやってきます。河口にたちはだかるように霞ヶ浦埋立地があるので波がなく冬はカモたちの昼の休息所になります。ときに、カワウの大群が通過したりもしますがふだんは多くても数十羽のカワウとアオサギが護岸で羽を休める程度の静かなところです。

河口から約2km、国道１号がまたぐあたりは桜の名所、市民の憩いの場です。このあたりまでは人の手が加えられ本来の海蔵川の姿はすっかり失われています。しかしここから上流にいくにつれ川本来の姿も見られるようになります。

河口から６ｋｍほどの中流以上では、ほぼ全域で護岸がなされているものの、植物が表面を被い水面に緑の影を落としています。流れは蛇行し、中州が発達して、狭い川のなかで緑がそこここにもりあがって島のようになっていたり，島がつながって流れを閉じ込め水溜りになったりしています。周辺の水田、近辺の里山、林、など様々な環境の野鳥がこの川の水辺を繁殖，水浴び、エサ場として利用しています。水田に水を供給するために春から夏には流れがせき止められ、砂州や大きなヤナギの根元が冠水しますが、秋になると水量が減り、中州が現れ、そこにイカルチドリやイソシギ、冬はキセキレイがエサを求めてやってきます。ときには渡り途中のタシギ、オオジシギも立ち寄ります。水田にはタマシギ、ケリ、ヒバリなどが住み付き、サギ類が７～８種類やってきます。猛禽類のオオタカがキジバトを襲ったり、チョウゲンボウの精悍な姿もたびたび見かけることもあります。

海蔵川の中流はこのようにゆたかな自然に恵まれていますが、平成12年に完成した可動堰に伴う川幅の拡幅工事により景観が一変しました。さらにそこから１kmにも満たない上流で将来北勢バイパスの交差工事による川の自然のかく乱が懸念されています。

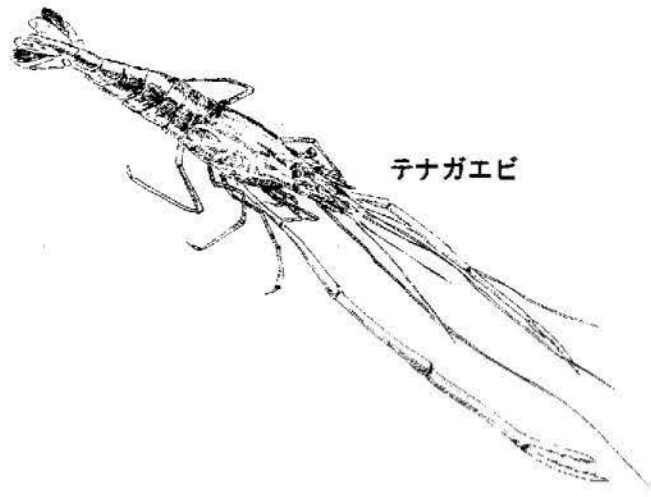
同じ水系の三滝川は海蔵川に先だってすでに親水護岸とやらの工事がすすみ、河岸・河床が大きなダメージを受けました。しっとりと深い緑におおわれていたかつての姿は見るかげもありません。河畔林の伐採、堰による魚類の遡上の阻害、工事による底生生物の生活環境の破壊、工事のあと必



ハクセキレイ

ずと言っていほど入ってくる外来植物…。この調子で三重県内にあとどれくらい本来の姿の川が残されるのでしょう。

自然界に生きる全生物にとって望ましい持続的な環境を守りたいのに、次から次へ降りかかってくる問題にどう対処したらいいのでしょう。自然の力に立ち向かうという奢った姿勢よりも自然が創り、築いてきたものを維持することを基本においてこそヒトと自然との共生の道がひらけるのではないでしょうか？



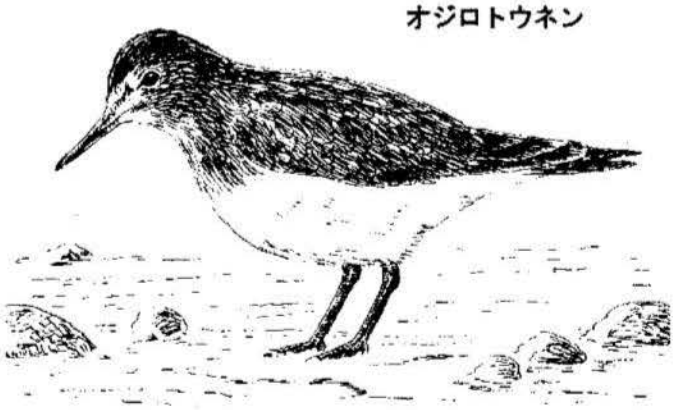
テナガエビ

中村川

久住勝司（一志郡 嬉野町）

高須の峰に源をもち、途中岩倉川、大谷川等幾多の支流より清流を集めて嬉野町内、25.5kmを経て雲出川に合流している一級河川である。上流域では梅、新緑、紅葉、雪景色と四季それぞれに渓谷とあいまってすばらしい自然美を呈している。そこに、オシドリ、カワセミ、ヤマセミ、カワガラス、キセキレイ等、上空では時としてタカ類が舞って、色どりを添えている。人の生活がかかわり始まる中流域より合流域にかけて、水流調整と農業用水取水の為の、11ヶ所の堰が設けられているので、よどみと砂州が出来、野鳥達の絶好の生息の場と、なっていて、コチドリ、イカルチドリ、ケリ、イソシギ、セキレイ類、サギ類、カイツブリ、バン、クイナ、町の鳥キジ、ホオジロ、ウグイス、コジュケイ等が通年見られ、天気の良い日にはカワラヒワ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト等の水浴、砂浴を観察することが出来る。合流部より３kmの地点に開閉式のゴムの堰堤があり、開けられると広い河原が現れる、左岸は普通のコンクリートの堤防だが、右岸は500mにわたって鉄線蛇籠による、自然型工法でなされ、堤防改修の見本の様な所で、石の間から草本が育ち、野鳥、生物の生育の場となっている。ここは春、秋の渡り鳥の中継地となっていて、マガモ、小ガモ等のカモ類、ダイゼン、タカブシギ、アオアシシギ、コアオアシシギ、オオハシシギ、タシギ等内陸性シギ、チドリ類、タヒバリ、ノビタキ、ツリスガラ、オオジュリン等、堤防にチガヤの穂がゆれ、オオキンケイギクが咲く頃には、セッカ、オオヨシキリ、ホトトギスが鳴き、ツバメが空を切っている。冬場にはオジロトウネンが毎年、10羽前後越冬しているのが、特記すべき所であり、今迄80余種の野鳥が観察されている。中村川流域には縄文時代よりの141ヶ所の古墳、遺跡群より258基が発見、記録され各種土器、土偶、埴輪、金銅製品が発掘されている。特に最近、日本最古の「田」の字の墨書土器と人面墨書土器が発掘され話題を呼び注目されている。又、以前には日本最大とされる「鴟尾」が発見され（平成８年国の重要文化財に指定される）近くの天花寺廃寺跡より珍しい菱型塼仏が発見されているのでこの大きな鴟尾を飾る様な大きな仏閣寺院があったものと考えられている。この様にこの中村川は自然が豊かで、川に育まれた文化が残っているのである。

オジロトウネン



河畔林に守られた川、安濃川

平井正志（安芸郡 安濃町）

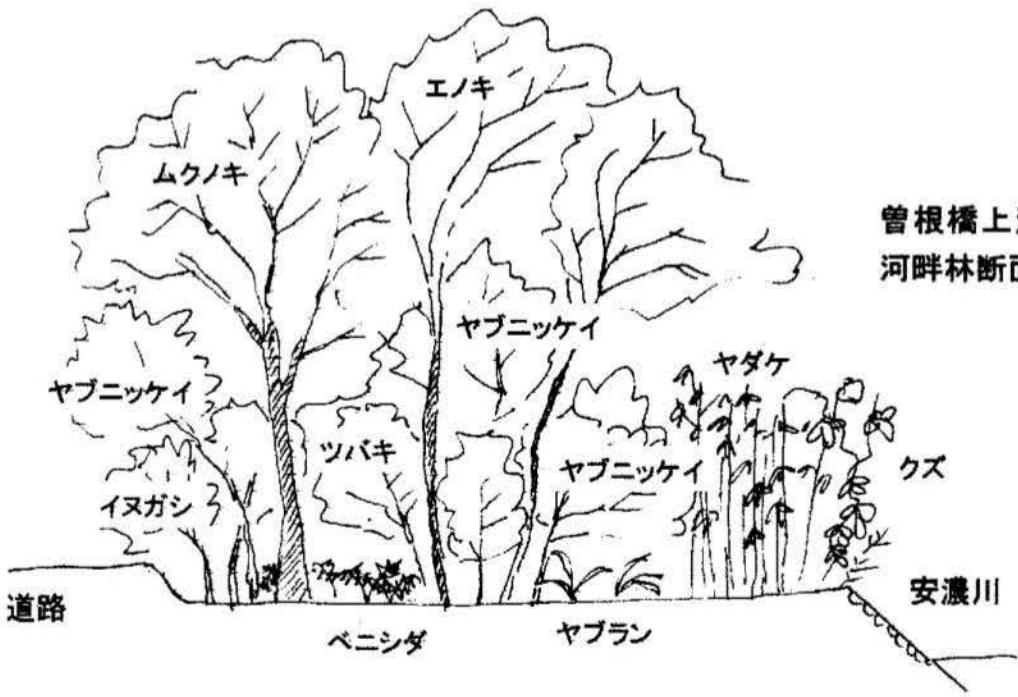
河畔林に守られた安濃川

安濃川は経ヶ峰819mに源を発し、芸濃町、安濃町、津市を流れ、伊勢湾に注ぐ中河川です。かつての中流部は右岸にも、左岸にも風にそよぐ大きなエノキを主体とした河畔林がありました。その下は深い茂みで、人があまり入りませんでした。この川にも近年大きな変化がありました。第１は昭和61年芸濃町河内に水利用ダムが造られ、水量が減りました。それまで中流には石ころの川原が広がっていましたが、水量が減り、アシが繁茂し、現在では河川敷のほとんどがアシで覆われ、ヤナギ類までも生えはじめています。第２は県道拡幅工事があり、左岸の河畔林のかなりが失われ、それまで河畔林に守られ見えなかった川筋が見えるようになりました。さらに最近安濃町によって右岸河畔の高木のいくつかが伐採され、桜が植えられました。桜が生長すればさらに高木が伐採されるものと思われます。

それでも安濃川はまだ豊かな河岸林を持ち、川筋は人目にあまり触れない部分が多く残り、警戒心の強い動物、鳥類の棲息を可能にしているすばらしい川です。

安濃川の鳥類

鳥類ではオオタカ、ハイタカ、ノスリなどの猛禽が訪れ、餌をとります。 あまり開けていない場所の木の梢からひっそりと獲物をねらっています。カワセミは年中見られ、付近で繁殖しています。ヤマセミも冬季には毎年中流まで飛来します。カワガラスは上流で繁殖し、冬季芸濃町多門橋付近までは降りてきます。タシギ、クサシギ、イソシギ、アオアシシギなどの鴫類が越冬したり、通過したりします。水が枯れた第２頭首工ではタゲリを見ることもあります。数年前まではイカルチドリが石ころの河原でひっそりと卵を抱き、繁殖していました。水の停滞する第３頭首工では多くのカモ類が飛来します。またカイツブリ、バンも繁殖も見られます。河原の葦の中ではホオジロ、オオジュリン、メジロ、エナガ、ベニマシコなどの小鳥が越冬します。河畔林のエノキの梢にはシメやイカルが実を求めて飛来します。その林の下の茂みではシロハラやアオジ、ウグイスが静かに餌をさがしています。渡りの季節にはノビタキなど多くの小鳥も通過します。また人目にはほとんど触れませんが、北海道で繁殖するノゴマや高山で繁殖するメボソムシクイが密かに通過しています。サギ類では一色橋下流右岸のコロニーでダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、アマサギの６種が繁



曽根橋上流左岸の河畔林断面

殖しています。ササゴイも一色橋より下流で毎年1，2羽見られます。また津市内の堰でも魚を捜しているのが見られます。
上流のダム湖ではオシドリ、マガモ、カルガモが越冬しますが、近年オシドリの数が減ってきています。ダム周辺ではまれにクマタカを見ます。

ほ乳動物、魚類など

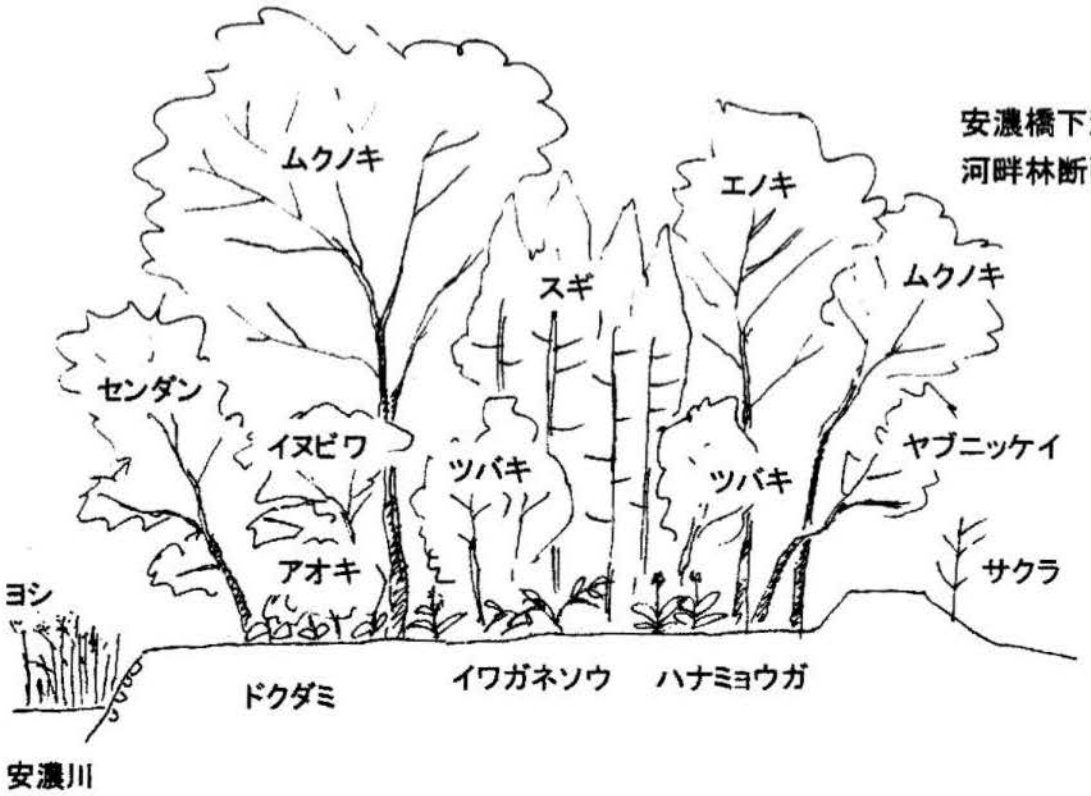
ノウサギ、キツネ、イノシシが生息し、シカが稀に迷い込むようです。
水生動物では　アユ、ウナギが遡上します。堰があるため、アユは津市一色橋より上には稀にしか遡上しません。また　モクズガニが見られます。しかし、最近は止水域でブラックバスが見られるようになってしまいました。

安濃川の野鳥観察場所

野鳥を見る場所は残念ながら多くありません。
一色橋下流左岸の堤防からはサギ類のコロニーが間近に見えます。安濃橋左岸下流200mほどの空き地からは第3頭首工付近の止水域が見えます。安濃小学校付近からは川筋がよく見えます。また第2頭首工左岸付近からも止水域の鳥が見えます。第1頭首工や多門橋付近でも川筋がよく見えます。そのほかは藪をかき分けて河川敷に出たり、木の少ない堤防から見る以外にはありません。

安濃川の河畔林

かつては両岸にほとんど連続した河畔林がありました。県道工事でかなりが減りましたが、安濃橋下流右岸の河畔林はエノキ、ムクノキの大木が多く、その下にヤブニッケイ、ツバキ、イヌビワなどが中層を形成し、ベニシダ、ヤブミョウガなどの下草が生える複層林です。また所有者の努力でしょう、竹類の繁茂も押さえられ、見事です。内部にあまり人も入らず、鳥や動物に絶好の環境を守っています。
面積はごくわずかですが曽根橋上流左岸の林はエノキとムクノキの高木が10数本残されています。大きいものでは胸高直径が95cmのものもあります。林床は中高木のヤブニッケイ、ツバキがあり、その下にはアオキ、マンリョウ、ヤブラン、ベニシダなどが生育しています。教科書どおりの複層林です。



またそれ以外にもエノキやムクノキを含む林が右岸にも左岸にも断続的に見られます。
これらの林は水に浸かることの多い河畔に耐水性の強いエノキが残されたもので中部地方平地河畔の自然植生であるとされています。

今後の改変、自然保護の視点
自然破壊の公園化

それに対してお隣の鈴鹿川では中流河川敷が大規模に公園化され、藪は刈り払われ、芝生と少しの園芸花木、駐車場とグランドになっています。開けた河川敷は人には心よい休息の場所ですが野性動物や鳥類にはすみにくい場所です。もはや自然を本当に楽しむ場ではありません。そこではムクドリやごみあさりのカラス類くらいしか見られません。他に公園にできる場所のない大都市であればまだしも、安濃川をそうすべきではありません。その自然を少しでも将来の子供達のために残すべきです。

河畔林の保護

最近安濃町によって残念ながら河畔の高木が伐採され、桜が植えられました。

自然にある植物を大切にし、今後竹類以外高木は伐採しないことを原則にすべきです。このような高木は数十年にわたって成長したもので、いったん伐採してしまえば、取り返しがつきません。現在の河岸林は高木の下にツバキ、ヤブニッケイなどの中高木が、またその下にベニシダ、ヤブランなど下草が生えている複雑な複層林です。この複雑な植生こそ重要な点です。また高木の下草を刈って公園のようにするのも好ましくありませんし、桜や園芸植物を植えるべきではありません。

河畔では現在竹藪が多く、現在竹藪が川と周囲を隔離して川の静かな環境を維持していますが、同時に高木の生長を阻害しています。竹藪を一度に全て伐採し、川が丸見えになるような改変は避け、竹やぶを順次縮小し、エノキなどの高木の生長を助け、高木の下にツバキ、ヒサカキやヤブニッケイ等が育つ複層の河岸林の再生を待つべきでしょう。

水量水質の管理、堰の改変、

石ころの川原は大雨による出水土砂が運ばれ、またヨシがはぎ取られ、再生するものです。ダムのない鈴鹿川では現在も石ころの川原が広がっています。しかし、安濃川では大雨の時も水量が調節され、土砂を運んだり、ヨシをはぎ取る力はありません。ダムからの放水量を増すことにより、水質も改善されるでしょう。できれば出水時に大量の水を流すべきでしょう。そうすればかつての石ころの河原がよみがえるでしょう。

安濃川には多くの堰があります。これらの堰は明らかにウナギ、アユやモクズガニなどの遡上の妨げになっています。いくつかの堰堤を改良あるいは廃止し、魚やモズクガニが遡上できるようにするべきです。

参考資料：安濃川で記録された鳥類
(安濃町内部分での観察のみ)

カイツブリ（繁殖の可能性あり）、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、マガモ、カルガモ（繁殖）、コガモ、ヨシガモ、
バン（繁殖）、
ノスリ、オオタカ、ハイタカ、（猛禽類は川を採餌場、すなわち狩り場として利用）キジ、キジバト、（ドバト）、トラフズク、タマシギ、イカルチドリ（繁殖）、ケリ、タゲリ、イソシギ、クサシギ、オジロトウネン、アオアシシギ（渡りに通過）、タシギ、
カワセミ、ヤマセミ、コゲラ、アリスイ、ミソサザイ、ツバメ、ショウドウツバメ（渡りに通過）、セグロセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ノビタキ、ノゴマ（渡りに通過）、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、メボソムシクイ（渡りに通過）、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、 ホオジロ、アオジ、クロジ、オオジュリン、ホオアカ、カシラダカ、
シメ、イカル、ウソ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（繁殖）、

「かわづくり会議みえ」の１年間を振り返って

川づくり会議みえ　副代表幹事　久世憲志

１．はじめに

去年の７月26日、アスト津で「かわづくり会議みえ」は産声を上げました。以来、会員・一般向けの勉強会・観察会を開催するとともに、本年２月には川をテーマに活動している団体の交流会となる「川のワークショップみえ」を県下で初めて開催しました。

以下に、当会のめざすもの、活動の経過などについてご紹介させていただきます。

２．「川づくり会議みえ」のめざすもの

南北に細長い三重県には、法律で川という名前のついたものだけでも556河川あり、その総延長は2,580ｋｍ余にものぼります。言い換えれば、身の周りにはたくさんの短い川があると言うことになり、それらを守る活動が各地で行われています。しかし、上・下流を通じた流域での取り組みや、県内での交流・情報交換・連携の取り組みまでには至っていない現状にあります。

「川づくり会議みえ」は三重県内の川や海をフィールドにした活動、また水問題や水・河川環境をテーマに様々な活動を実践している団体・個人をネットワークして、お互いの交流やスキルアップを図るとともに、行政、企業との連携を進めるために、その中間的役割を果たしたいと考えています。

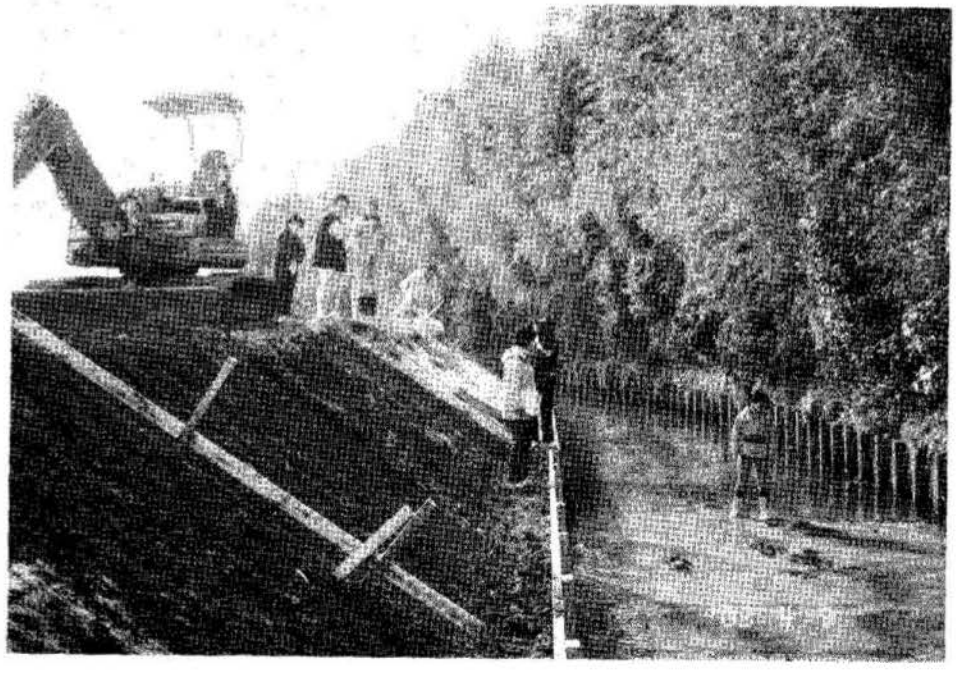
３．第１回「川のワークショップみえ」の開催

このような役割を担う「川づくり会議みえ」の全県ネットワーク型の取り組みとして、実行委員会方式で、本年２月15日第１回「川のワークショップみえ」を三重県庁講堂において開催しました。

この「川のワークショップみえ」は、市民（団体）と行政がそれぞれに、あるいは、パートナーシップで取り組んでいる川などでの活動や事業を、公開で発表、評価しあい、その中から「いい川」や「いい川づくり」の具体像を見つけ出して行こうとする試みで、①市民（団体）と行政相互の交流や、スキルアップ。②パートナーシップによる「いい川づくり」の促進。③市民（団体）と行政相互の「川の将来像の共有化」などをめざしました。

プログラムは、全体で活動の発表・質疑、選考員と参加者による公開選考という流れで行いその後、全体でのディスカッション、とりまとめを行い、この過程の中で、参加者とともに議論を深めて行くこととしました。

この日は、愛知県からの参加（１団体）を含む25の団体が参加し、各団体が取り組んでいる活動を紹介することで自己の活動を中間総括し、他の活動を知ることで知的刺激を受け、相互交流や連携のきっかけになったと考えています。しかし、よいきっかけとなったものの、「川づくり会議みえ」の趣旨である「市民団体等の交流と連携」のために、今後なにがフォローアップできるかを考えなければ、ただのお祭りに終わってし



まいます。例えば、今後、全体ディスカッションの場で提案があったオープンな情報交換の「場」づくり等をすみやかに進めることが必要だと考えています。

4．今取り組んでいること

昨年末、一人の会員から相談が持ちかけられました。一級河川宮川の支川である汁谷川の上流水路が三面張りにされるので何とかならないかという内容でした。

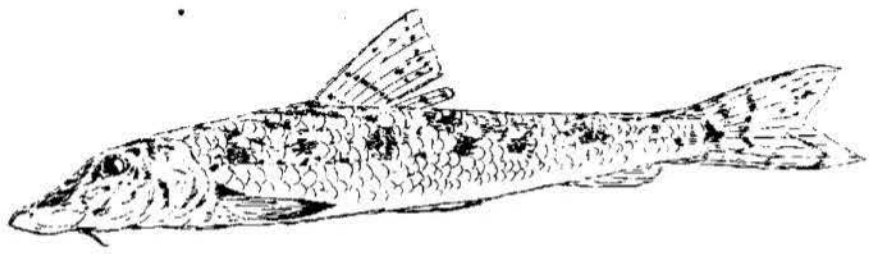
早速、1月4日に現場調査に出かけました。すでに水路の大半の延長が川底にコテ跡の残る「悲しい川」になっていました。かつてはヤリタナゴ、アブラボテやマツカサガイが生息した、豊かな自然を支えていた砂れきの川底は、残り僅か60mにまで狭められていました。確かに、ここで農業を営まれている方々にすれば、草刈など維持作業の軽減に大いに役立つ工事とは言えるかも知れませんが、「**川は誰のものか**」ということを考えたとき、余りにも人間の都合だけを考えた一方的な工事であると考えざるを得ませんでした。

このため、管理する玉城町への意見具申、魚類の専門家による現地調査（6月24日）を行うとともに、会員による観察会開催を通じて地域住民への訴えかけを始めています。

5．おわりに

汁谷川上流の残りの工事がどの様になるのかの結論は、まだ見えていません。しかし、この小さな川は、三重県のほとんどの河川が共通して抱えているさまざまな問題を象徴的にあらわしており、この川を守ろうとする私たちの具体的な行動はささやかな取り組みとは言え、当会のめざす「**三重のいい川づくり**」に通じているものと確信しています。今後とも、ご支援をよろしくお願いします。

カマツカ



員弁川

近藤義孝（いなべ市）

員弁川は西側に位置する鈴鹿山脈と東側に位置する養老山脈に囲まれ、いなべ市、東員町、桑名市、川越町、朝日町を通り、伊勢湾に流れ込む長さ約35ｋｍの河川である。

この川には、農業用水をとるための堰はあるが、大規模なダムはない。三重用水として使われている中里ダムは揖斐川水系の牧田川などから取水している。そのため、員弁川はいつもある程度の水量が確保され、上流から下流まで、豊かな河川環境を作っている。

鈴鹿山脈の三国岳・烏帽子岳あたりを源流とし、員弁川西側に位置する鈴鹿山脈から流れる青川、源太川、宇賀川などが主な支流である。また、東側にある養老山脈からは相場川、田切川、貝野川、山田川などが主な支流となっている。これらの川の上流部は深い山に囲まれている。そのため、平野部では観察できないセンダイムシクイ・ミソサザイ・クロツグミ・オオルリ・アオゲラ・アカゲラ・ツツドリ・ジュウイチ・コルリ・カワガラスなどがいる。

中流域は伊勢平野北部をゆったりと流れる。両岸には河岸林が発達しているところもある。河岸林にはサギ類のコロニーなども観察できる。河川の中の大きな木にはノスリ・オオタカ・トビなどの猛禽類が観察できる。また、ハヤブサも水田にいるハト類などをねらって姿を現す。チョウゲンボウも冬にはよく姿を見せる。また、カワセミ・イソシギ・コチドリ・ハクセキレイ・キセキレイなどとともに員弁川を代表する鳥といえるイカルチドリがいる。このあたりではイカルチドリが好む大きさの礫が多い。この中流域には河岸段丘が観察でき、河岸段丘の斜面は林になっているとこ

ろが多く、連続した緑の回廊となって、野生生物にとって貴重な棲息場所となっている。河岸段丘を横切る道路をわたっているキツネを見かけることもある。

下流域に達し、員弁川が桑名市まで来ると町屋川と呼ばれている。伊勢湾へ注ぎ込む河口部ではたくさんのシギ・チドリが観察されている。また、アシ原もあり、チュウヒなどの猛禽類が観察できることもある。揖斐川河口と町屋川河口の間の埋め立て地である城南地区の水田ではタマシギなどが観察できる。

昨年、2003年12月に員弁郡の4町（藤原町・北勢町・大安町・員弁町）が合併して、いなべ市となった。今までの員弁川はそれぞれの町境を流れているため、河川敷を芝を張った公園などにするような工事は桑名市の一部を除いてなかった。これからも自然豊かな員弁川であるように見守っていきたい。

ノリウツギ

私のフィールド鈴鹿川

伊藤　多紀子（亀山市）

鈴鹿川は、関町、亀山、鈴鹿市、四日市等を流れる主な河です、延長約38km鈴鹿峠付近に源流があり、中津川、加太川、御幣川などの支流を集めて四日市南部で伊勢湾に注ぐ一級河川です。私のフィールドは河口より20-24kmあたりです、亀山橋を中心に（川上、川下）を観察しております、川幅のわりに川原が多く水深も浅く水量は少なめで伏流水が多いといわれています。また、右岸は田んぼと里山が連なり左岸は亀山駅を中心に川と平行にJRが走っているあたりです。

年間を通じて、カワウ、カルガモ、サギ類（コサギ、ダイサギ、アオサギ）カワセミ、セキレイ類、また、ノウサギ、キツネの親子もみられることもあります。

植物は右岸に　サクラ、エノキ、ムクノキ、スギ等の樹木があり河川敷には　蔓性植物やウルシ科にハリエンジュが生えている。また、右岸には竹藪があり亀山橋西付近にはヤナギ等が並木の様に生え自然に堤防の役目をしている。この付近には、コジュケイ、キジ、ホホジロ、ウグイスの住処となっている。

春～夏：イカル、ケリの営巣や子育てを見ることができる。春の渡りには、アオアシシギ、キアシシギ、コムクドリ、ヒレンジャクにも出会えることもある、また、ヨシ原にはオオヨシキリ、セッカがいて沢山のツバメが川面を飛び交う、川ではオイカワ，カワムツがはねる様子も見ることができる。

秋～冬：堤防には、ヒガンバナ、ツルボ、カワラマツバ、ツリガネニンジン等が咲き、ススキ、ツルヨシの穂が実るころには冬鳥が来る、ツグミ、クサシギ、タシギ、タヒバリが水辺を歩き、カシラダカ、ホウアカ、ジョウビタキもやってくる、大空にはオオタカ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウ等が舞う日もある。

この川の恵みにより私たちは生かされ、鳥や昆虫、動物、花木に感謝しつつ次世代に続くよう願っています。

☆気になる事

この川は水利権の関係で春ブルドーザーが入り川の流れが変更になったり中州の木々が倒されたりして環境が変わるためか近年鳥の数が減少したように感じる。（オオヨシキリ、イカルチドリ、タカ類）

☆お知らせ：毎年5月4日探鳥会を行っています。（亀山駅から徒歩で５分程度）都合がよければ参加してください。

鈴鹿川での記録

春、秋の渡り：アオアシシギ、キアシシギ、ツリスガラ、コムクドリ、ヒレンジャク

夏：コアジサシ、ヒクイナ、クイナ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コチドリ、ノビタキ、ツバメ、オオヨシキリ、コシアカツバメ

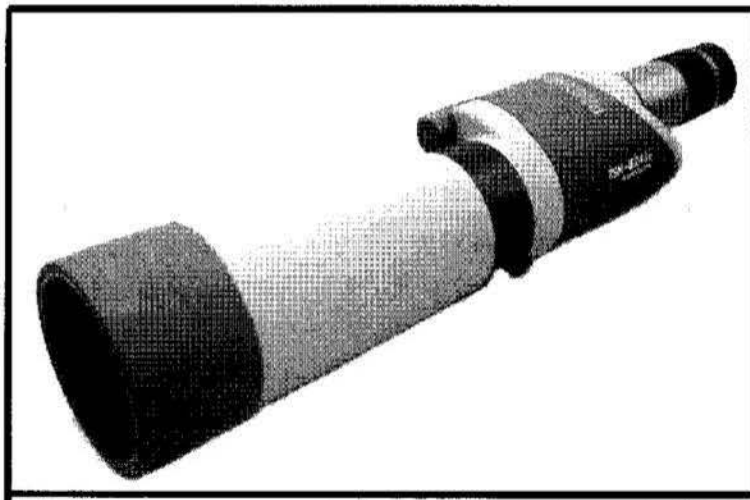
冬：タゲリ、クサシギ、タシギ、ツグミ、カシラダカ、タヒバリ、ジョウビタキ、ホオアカ、シロハラ

留鳥：オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、カルガモ、カイツブリ、ゴイサギ、シロチドリ、キジ、キジバト、ヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラヒワ、イソヒヨドリ、メジロ、シメ、イカル、エナガ、シジュウガラ、スズメ、ホオジロ、ウグイス、コジュケイ、カワセミ、ヤマセミ、イソシギ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、イカルチドリ、ケリ、セッカ、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ

三滝川上流域（三重郡菰野町大庭根園付近）

矢田栄史（三重郡 菰野町）

国道306号にかかる菰野大橋から上流部にかけて1996年から河川工事がおこなわれており、コンクリート二面張りの部分もある。またジョギングコースや遊歩道もあり散歩する人も多い。2003年４月にはすぐ近くに菰野町役場が移転されたり、2004年春から川の近くの荒地が宅地に造成されて今後100軒近くの住宅が建つ模様である。 環境はどんどん生きものにはまずい方向へむかってます。鳥類ではセグロセキレイ、イカルチドリ、カワセミ、ツバメ、ツグミ、ジョウビタキ、ベニマシコなどがみられるが、年々種類も数も減っている模様。 そんな中2004年３月にはヒレンジャクの小群がみられた



取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡（小型・大型）
天体望遠鏡
カメラ（新品・中古）
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル）
〒514-0801 津市船頭町3412（メガネのマスダ2F） TEL 059-228-4119
定休日／毎週水曜日 営業時間／10:00～19:00
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc

津市御殿場海岸の珍客

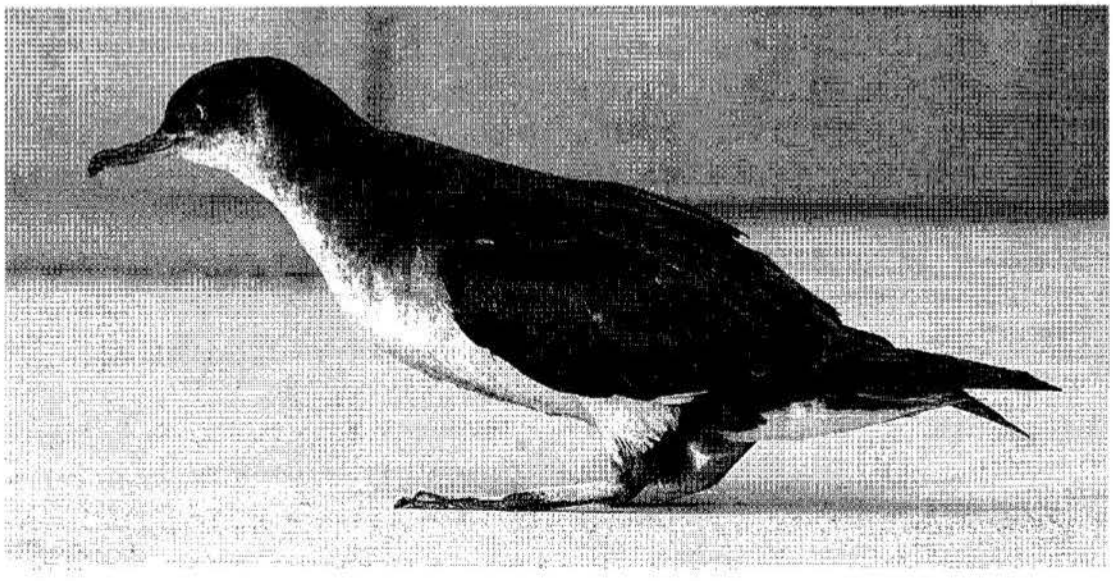
ーヒメミスナギドリ属の一種の
識別に燃えた熱い日々！ー

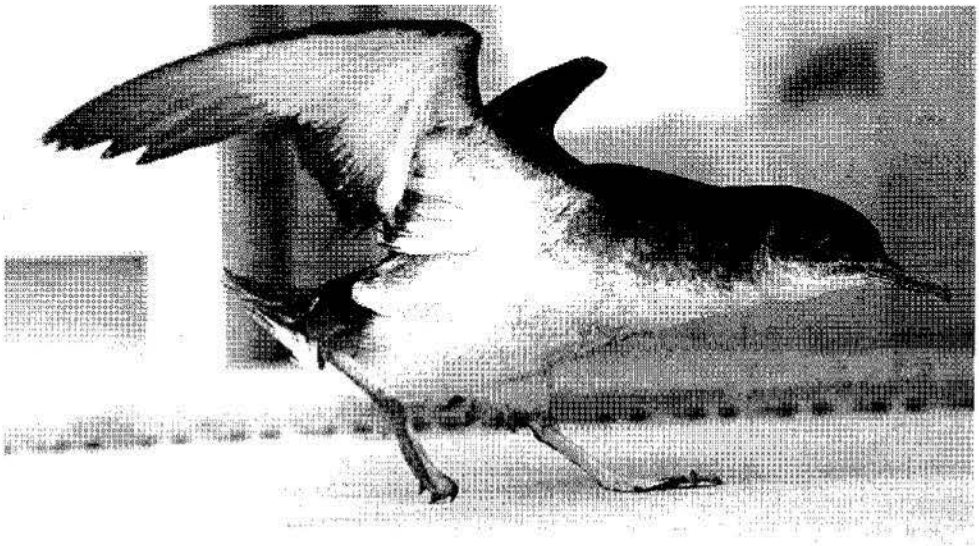
多田弘一（一志郡 嬉野町）

2004年6月23日、いつものように昼休みの探鳥に出た。途端、滋賀県湖北水鳥センターの西村武司氏から携帯電話が鳴った。「6月19日、中日新聞夕刊に掲載された海鳥の写真は、オオミズナギドリではなくてミナミオナガミズナギドリに似ているので、真相を調べて欲しい」との依頼であった。この情報を全く知らなかった私は、頭をゴツンとやられた感じで御殿場海岸へ急行した。海の家「グリル・にっぽんや」を探し当て、店の方々に詳細を聞くことができた。2004年5月28日夜、海の家に、一羽の見慣れぬ海鳥が着地した。その2～3日前から、外灯のもと、猛スピードでの旋回飛翔が見られていたそうである。着地した海鳥は、歩行がぎこちなく飛ぼうとしないので、ケガをしていると判断した店のオーナーは、某動物病院に受診させた。その結果、異常なしとのことで、翌日、御殿場海岸から北へ約20km離れた千代崎海岸で放鳥された。ところが、6月3日の夜、その鳥は、再び御殿場海岸に戻って着地した。近辺はノラネコが多くて危険なので、夜間は海の家の別室に保護され、翌日に放鳥されていた。6月14日に中日新聞記者の取材を受け、その日から飛来しなくなった。しかし、私が初めて訪問した　6月23日の夜間、幸いにも9日ぶりに飛来し、軽快な飛翔と「クワックワッ」と激しく鳴く声を聞くことができたが着地はしなかった。

翌24日夜、「三重のメモ鳥ML」の仲間5名と現地で待機していたところ、幸運にも謎の海鳥は大きな鳴き声を発して着地に成功した。熱い議論の結果、セグロミズナギドリ日本産亜種、いわゆるオガサワラミズナギドリ　（*Puffinus lherminieri bannermani*）が最も適切であると判断した。オガサワラミズナギドリという和名は、現在正式には使用されていないが、ここでは便宜上使用したい。以後、オガサワラナギと略す。7月3日の中日新聞朝刊に、既報のオオミズナギドリは、実は珍鳥セグロミズナギドリであったとの訂正記事が掲載された。

これにて一件落着と思ってホッとしていたところ、我々の仲間の奥田幸男氏が、北大西洋で繁殖するマンクスミズナギドリ　（*Puffinus puffinus*）ではないかという意見が出された。以後、マンクスナギと略す。　図鑑を見たり、ネットで検索するうちに、極めてマンクスナギに似てるという意見が多数を占めるようになった。その後、識別にはますます困惑を深め、日本全国から海の家を訪れた海鳥研究家、野鳥写真家、愛鳥家の皆さんの間では、マンクスナギ説が優位を占めていた。山階鳥類研究所の茂田良光氏は、強固にオガサワラナギ説をとられていた。羽が新鮮で擦





れも少なく、後頸部の灰色味がなくて黒っぽいので、今年生まれの幼鳥であると判断された。一方、専修大学の清水博之氏らのグループはオガサワラナギの繁殖データがないので、あくまでも推測ではあるが、ミズナギドリ類は、5～6月に繁殖が始まるので、今年生まれでは、巣立ちの時期が合わないと主張された。さらに、本個体は、夜間の着地時に激しく鳴くので、繁殖期であろうと推測されていた。

この意見に対して、茂田氏は、籾山（1930）の報告によれば、北硫黄島にてオガサワラナギが、1月下旬から2月上旬に来島するとしているので、産卵が2月中に行われる可能性は十分にあり、巣立ち後すぐであるならば、今回の飛来はありうる。さらに、茂田（1997）は、1994年5月23日、小笠原の父島属島の南島で標識放鳥したオガサワラナギ成鳥には抱卵斑の跡が認められたと報告した。抱卵斑は、すでに後退していて羽毛が生え始ており、孵化後かなりの日数が経っていると考え、オガサワラナギの繁殖期は、かなり早いと推測した。よって、今年生まれの個体である可能性は大きいと説明された。

マンクスナギの可能性を強く主張されていたのは、清水博之氏、真木広造氏、小澤重雄氏、池長裕史氏らのグループで、その根拠として翼長が明らかに長いこと、初列見切の先端羽が、P.2より長いこと、嘴が大きく鼻管が短いこと、翼下面に腋から伸びる黒線がないこと、下尾筒の白色が優位なこと、鳴き声がマンクスナギに似ていること（ただし、オガサワラナギの鳴き声の録音はない）などによる。清水博之氏は、2003年4月、小笠原諸島父島で、オガサワラナギの死体を見つけ撮影された。その画像を拝見すると下尾筒は全体的に黒色を呈していた。その時の標本は、山階鳥類研究所へ寄贈されている。榛葉忠雄氏の友人であるオーストラリアのベテランバーダー・Mike Carter氏は、三重のメモ鳥のHPに張り付けた多数の画像をご覧になって、マンクスナギに間違いないと言われた。

7月に入って、この個体は、3回着地に成功した。2日、6日、10日の夜間であり、一晩保護されて、3日、7日、11日の午前中に放鳥された。放鳥時は、この鳥を撮影・観察する絶好の機会であったが、私は、3日に遠出していて不在であったので、当支部研究部の前澤昭彦氏に連絡を入れた。保護部の平井正志氏には、岡八智子氏を通じて連絡が届き、ご足労いただいたようである。7日には、店のオーナーの許可を受けて、小澤重雄氏が施行された嘴と尾の計測の助手を務めた。11日の放鳥時には、オーナーがかなり神経質になっておられたので、何もせず、静かに放鳥してやることに賛成した。この時、メジャーを置いて足跡を撮影し、その画像を茂田氏にお送りした。山階鳥類研究所には、19羽のオガサワラナギと2羽のマンクスナギの標本があり、撮影した足跡のサイズと照らし合わせてもらったところマンクスナギにしては小さ過ぎ、オガサワラナギにマッチするとの返事をいただいた。セグロミズナギド

リは、10亜種が存在するがその中でもオガサワラナギが最も大きな個体の亜種である。よって、マンクスナギの可能性は薄らいだ。池長裕史氏は、DNA分析のための羽毛を拾われていたが、材料としては不十分であった。現時点では、オガサワラナギか、マンクスナギかの結論は出ていないが、山階鳥類研究所所蔵の標本を比較検討され、小笠原諸島における生きた成鳥2個体を観察されている茂田氏のご意見が重いように感じている。

オガサワラナギであるならば、本土2例目（生きている個体は初記録）、マンクスナギならば、本邦初記録、しかも北太平洋初記録となりいずれにしても極めて珍しいことである。

環境省のレッドデータブックでは、情報不足種のオガサワラナギではあるが、今後、その解明が進められた時、本個体がいずれに属するか判明する時が来るであろう。幸い、今回多数の画像が残された。皆様が撮影された画像も大切に保管していただきたい。

今回のヒメミズナギドリ属の一種の観察、識別には、実に多くの方々にお世話になった。 まず、海の家「にっぽんや」のオーナーの駒田氏、店長の飯坂氏、従業員の皆様には、最初の訪問時から懇切丁寧にお教えいただき、飛来時の電話連絡、夜間の保護、翌朝の放鳥作業、問い合わせの電話の応対などなど、実に煩わしいことであったと思われる。そのご協力に深く感謝したい。山階鳥類研究所の茂田良光氏には、ご多忙中にもかかわらず、貴重なご意見を丁寧にお示しいただいた。小澤重雄氏、清水博之氏、池長裕史氏には、現地で、海鳥に関する専門的な知識をお教えいただいた。特に、小澤氏、清水氏は、東京から現地に何度も足を運ばれ、その情熱には感服した。真木広造氏、山形則男氏、佐藤　進氏、森岡照明氏らの著明な写真家の方々には、野鳥に関する興味深いお話しを聞かせていただいた。当支部の前澤昭彦氏、平井正志氏には、計測の労をとっていただいた。三重のメモ鳥MLのメンバーの皆様は、多数の方々が、謎の海鳥に強く好奇心を持たれ、種の解明のため参加、協力、激励をいただいた。

文末ではあるが、上記の皆様に厚く御礼申しあげたい。最後になってしまったが、本種の識別に燃えていた頃、恩師橋本太郎氏がお亡くなりになった。氏は、私が野鳥観察を始めた1995年から、実に親切なご指導をいただいていた。謹んで、氏のご冥福をお祈りしたい。合掌

（本稿は、2004年7月25日の時点で書き上げたものである）

2004年ホトトギス初認記録

矢田栄史（三重郡　菰野町）

「三重のメモ鳥ML」メンバーによるホトトギスの初認記録です

日付	観察者	観察場所
5/17	三浦 悟	久居市大鳥町
5/17と5/21	安藤宣朗	四日市市坂部ケ丘
5/18	中井節二	紀和町丸山千枚田
5/19	津野修一	和歌山県日高町
5/18	田中洋子	奈良県宇陀郡榛原町
5/21	同上	奈良県宇陀郡榛原町鳥見山　2羽以上
5/22	小林正一	京都府精華町
5/22	田中豊成	名張市赤目町鹿島
5/23午前5：50	矢田栄史	三重郡菰野町自宅
このあと朝8時ごろ、菰野町で鳴きながら飛ぶ1羽を見ました。		
5/25	小林達也	奈良県曽爾村屏風岩
参考記録　2003年4/20	名古屋市平和公園 平和公園鳥類調査グループ	

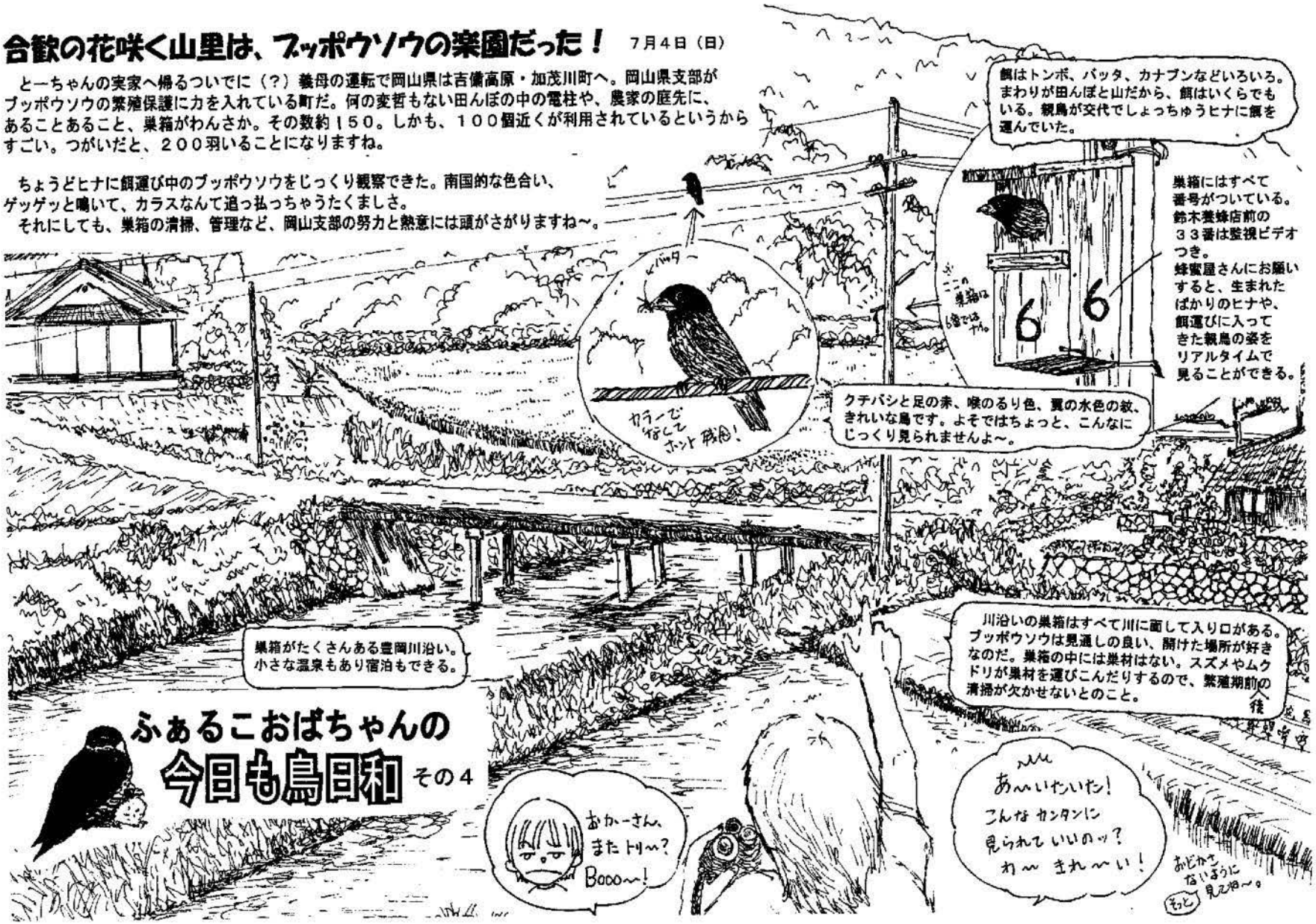
上段左から　ベニマシコ、アトリ
カワラヒワ、　　イカル、
　　シメ、
ウソ、　　マヒワ
　イスカ、ハギマシコ

ペン画：平井正志（安芸郡安濃町）

合歓の花咲く山里は、ブッポウソウの楽園だった！　7月4日（日）

と一ちゃんの実家へ帰るついでに（？）義母の運転で岡山県は吉備高原・加茂川町へ。岡山県支部がブッポウソウの繁殖保護に力を入れている町だ。何の変哲もない田んぼの中の電柱や、農家の庭先に、あることあること、巣箱がわんさか。その数約１５０。しかも、１００個近くが利用されているというからすごい。つがいだと、２００羽いることになりますね。

ちょうどヒナに餌運び中のブッポウソウをじっくり観察できた。南国的な色合い、ゲッゲッと鳴いて、カラスなんて追っ払っちゃうたくましさ。
それにしても、巣箱の清掃、管理など、岡山支部の努力と熱意には頭がさがりますね～。



小坂里香（度会郡渡会町）

バードウオッチング検定

岡本忠佳（伊勢市）

2001年に始まった検定は、今年で4回目となります。受験の動機は、身近な鳥を覚えたいという単純なものでした。テキストの野鳥識別ハンディ図鑑、「新・山野の鳥、新・水辺の鳥」とスキャントークを買って早速勉強を始めた次第です。　大阪での受験の結果は、85/100で2級認定、毎年得点は上昇しているのですが、1級は難しいですね。あともう少しなんですがテキスト外の問題に、いつもミスを出しております。しかし、級は資格ではなく自分の知識や程度を知る目安と言われていますので気楽に取り組もうと考えています。　今年は、11月3日（文化の日）に奈良県の洞川エコミュージアムセンターで受験する予定で、前日に出かけ紅葉を楽しみたいと思っております。小説、内田康夫の「天河伝説殺人事件」の舞台ともなっており、浅見光彦になったつもりで試験問題の謎ときに再チャレンジです。ベテランほど知識豊富なために考えすぎてしまうように思います。毎回、一部の方に試験問題と回答をコピーしてお渡ししていますが、一度トライされたらいかがでしょうか。一緒に出かけるのを楽しみに待っております。

バードウォッチングと俳句

（野鳥の俳句入門）　　坂口草人

○ 秋 の 鳥

秋は海から、9月ともなると旅鳥のシギ類が賑やかだ。また、夏鳥の鷹や燕が去り、小鳥類が静かに渡り来て楽しませてくれる。俳句では、小鳥・坂鳥・色鳥が季語となって秋に飛来する小鳥達を詠んでいる。

亜麻鷺の群従へて耕耘機

神島の鷹渡りゆく空碧し

灯台を脳裡に刻み鷹渡る

人影の無き公園に鵠一羽

秋耕の畝狙ひをり椋の群れ

五主浜干潟をまたず鴫の群れ

小鳥追ひ家に戻れば草虱

夕鵙や奈良の奥山渓の音

リーダーの突如喚声鷹柱

鳥渡る老いたれどまた旅の夢

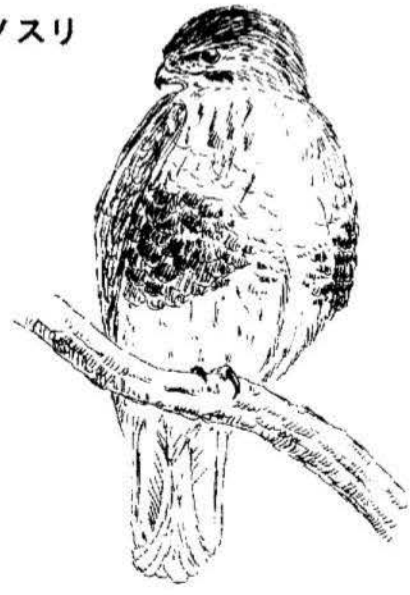
お詫び、前号43号の一句に印刷ミスがありました。改めて正しい句をここに掲載します。－編集部－

○夏の鳥

鬼瓦無言の睨み青葉苑

－41号から続いた坂口草人の春夏秋冬の俳句連載も今回で一応終了しますー　編集部

ノスリ



初めての曽爾高原

斉藤丈士（桑名市）

奈良県と三重県の県境にある曽爾高原。秋のススキが美しい場所として有名だと聞いていましたが、草原の鳥を見たくて６月13日に初めて行ってみました。（実は、この日は三重県支部の探鳥会が開催されていたのですが、支部からの案内を読んでいなかったため参加できず、単独で行動しました。）

電車で名張まで行き、そこからバスで曽爾高原まで約50分。この時期は１往復しかありません。途中、青蓮寺川に沿って走るので、ヤマセミでもいないかなと思いながら窓の外を見ていましたが、やはりそんなに甘くありません。カワセミでがまんしました。

終点でバスを降りましたが、草原は見えません。少し不安を感じながら、とりあえず坂道を登りました。すると急に視界が開け、目の前に草原が広がっていました。来る前には、なんとなく平らな草原を予想していたのですが、実際には適当に起伏があり、さらにすぐ目の前にある小高い山（標高約850mの亀山）のなだらかな斜面も緑のじゅうたんに覆われていて、柔らかな緑に包みこまれる感じがしました。草原を渡る風も爽快で、正直なところ、こんな素晴らしい場所があったものだと驚きました。

その後は鳥を探しながら、草原の一段と低くなったところにある「お亀池」（周囲800m。池とは言っても、ほとんど湿地化しているということです）のまわりや階段状の山道をしばらく歩き回りました。遊歩道が完備されていて、歩くのに全く不都合はありません。

鳥の方は、草原という環境のため、種類は多くありませんでした。それでもホオアカの声と姿を十分堪能できました。また、一度だけホトトギスの声を聞きました。年によっては、コヨシキリが多いこともあるそうですが、残念ながらこの日は見ることはできませんでした。（支部の探鳥会では、車を利用して少し離れた近くの屏風岩に行き、森林にいる鳥も探すそうです。）

ススキの季節の曽爾高原は、まだ見たことがありませんが、少なくとも緑の季節のすばらしさを実感できた一日でした。

セッカ

「木曽岬干拓地フォーラム」

日時　11月28日　14時より

場所　長島中央公民館　桑名郡長島町松ヶ島61-3

ＴＥＬ　0594-42-1000 近鉄長島駅から、徒歩15分

長島町役場前　国道一号線伊勢大橋近く

フォーラムの前に木曽岬干拓地・鍋田干拓地を観察する探鳥会があります。

集合は午前９時、愛知県海部郡弥富町弥富野鳥園駐車場です。

こちらもご参加ください。

（毎月第４日曜日に愛知県野鳥保護連絡協議会と共催で実施）

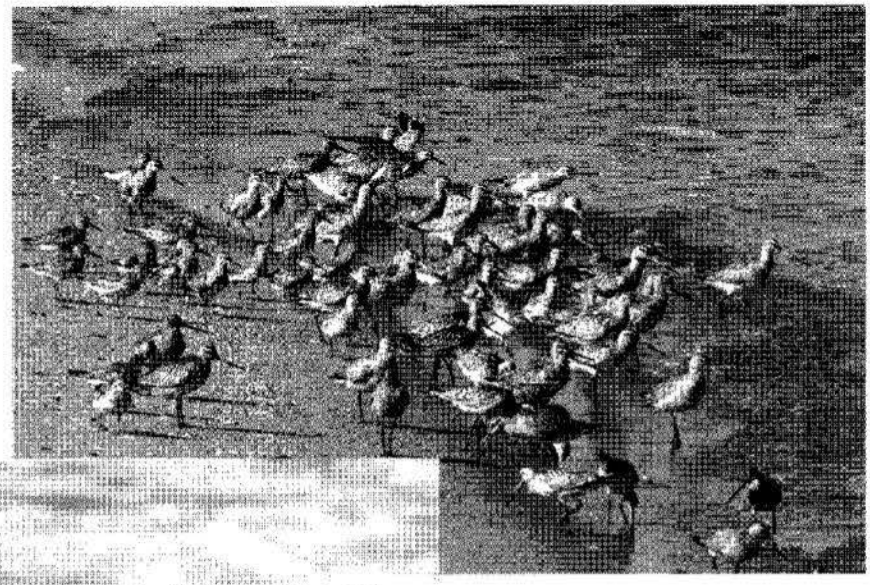
なお、フォーラムの詳しい内容については、日本野鳥の会三重県支部のＨＰ（http://www.amigo2.ne.jp/~miebirds/）に後日（９月末まで）に掲載します。

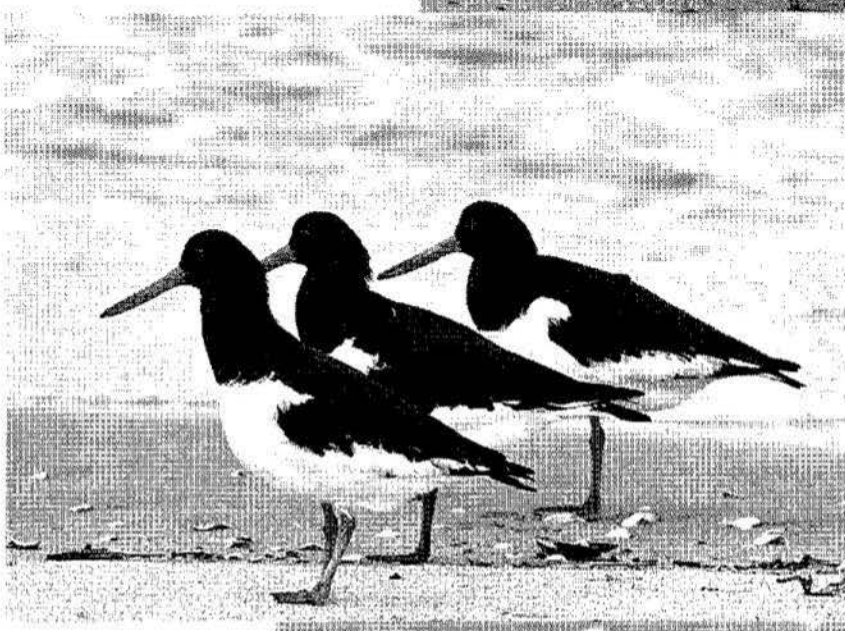
Migrator ～雲出川河口の渡り鳥たち～

春と秋、日本の海岸を訪れるシギ・チドリ。

その魅力的な姿を集めて見ました。

写真：多田弘一
（嬉野町）

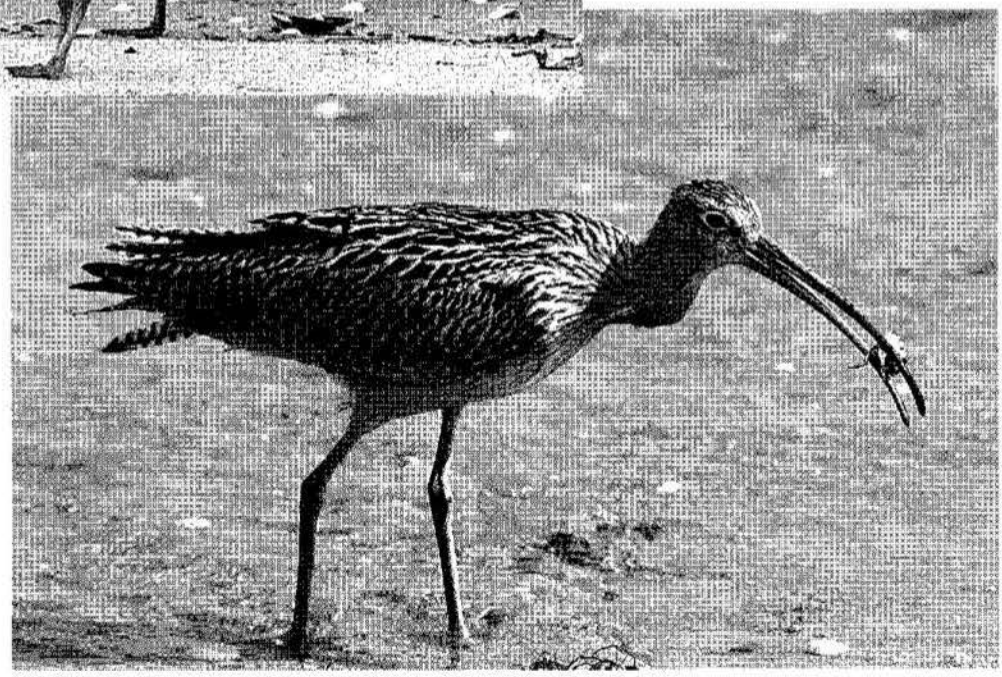




右上：オオソリハシシギ、オバシギの群　2003/10/6

左：ミヤコドリ
2002/10/22

右下：ホウロクシギ
2002/10/2



このページは多田氏の写真を編集部でレイアウトしました。

2004年度日本野鳥の会三重県支部総会

まとめ：事務局

2004年度日本野鳥の会三重県支部の総会が、5月23日（日）13:30より、三重県総合文化センターで開催されました。出席者は36名、市川副支部長が司会進行をつとめ、杉浦支部長は挨拶のなかで、今年2月に急逝された谷本理事に対する哀悼の意を述べました。そのあと、議長に村田芳雄理事、議事録署名人に尾畑玲子氏、川口久美氏を指名しました。以下の通り、各項目について質疑応答の後それぞれ承認を受けました。

2003年度事業報告承認の件＜保護部、研究部、企画部、編集部、事務局＞
2003年度決算報告、監査報告承認の件　　＜事務局財務担当、監事＞
2004年度事業計画案承認の件　　＜保護部、研究部、企画部、編集部＞
2004年度予算案承認の件　　＜事務局財務担当＞

最後に、支部長より、本会は設立当初から「財団法人日本野鳥の会三重県支部」という名称を用いていましたが、「財団法人」という資格を取得していないボランティア団体であるために、「財団法人」という文字を使用できなくなったという報告がありました。
各部の事業報告と事業計画は次のとおりです。

◇編集部

2003年度事業報告

しろちどり39,40,41,42号を発行した。特集に力をいれた。　野鳥情報が少ない問題点がある。

2004年度編集部事業計画

年4回しろちどり発行予定　写真も掲載する予定。野鳥の生息環境保護にも力を入れる予定。野鳥情報の充実が課題である。

意見：もっと講座を受けたいので、自治体が催す講座も知らせしてほしい。

応答：事務局には、自治体が主催する講座等の情報は寄せられていない。また支部報発行に合わせて発信するタイミングも難しいが、情報が集まれば積極的に載せたい。

◇保護部

2003年度保護部事業報告

1）木曽岬干拓地利用問題

支部の利用案を検討し、干拓地のまま残し、チュウヒの繁殖地として保護する案を愛知県側野鳥保護団体に提示した。チュウヒの繁殖調査を継続し、2年分をまとめ、報告書を出した。2003年11月23日に長島町でシンポジウムを開き、木曽岬フォーラム提言をまとめた。　2003年は3ヶ所でチュウヒの繁殖が成功した。繁殖地保護を柱とした干拓地利用案を愛知県支部と共同で両県に提示した。

2）北勢地方クマタカ繁殖地開発問題

委託事業として繁殖調査を行った。のべ150時間の調査であった。開発地周辺で頻繁に幼鳥が観察された。2003年、2004年の繁殖は失敗した模様である。

3）中勢地方オオタカ繁殖地工事問題

調査を継続した。2003年はヒナ1羽が巣立ち、2004年も順調に繁殖に入っている模様である。工事担当者と打ち合わせて工期を非繁殖期（8月―12月）に限定している。

4）雲出川河口、五主海岸　カイト問題

地元カイト用具店との話し合いで、河口延長線部分へ立ち入らないよう要請した。国土交通省

と話し合い、野鳥保護の看板を立てた。

5）シロチドリ繁殖保護

2003年田中川河口に保護柵を一列設置した。豊津浦ー町屋浦で観察されたヒナは3羽のみであった。

6）安濃川問題

河岸林保護を中心とした提言をまとめた。近々発表の予定である。

7）吉崎海岸遊歩道問題

シロチドリなどの繁殖を保護し、脅威を与えないよう要望書を提出した。

8）高松海岸霞4号線問題

検討の結果、現在のルート3改良案ついて、2004年4月12日付けで三重県知事（環境部）、四日市港管理組合長へ再検討を要請する要望書を提出した。

質疑：五主海岸のカイト問題で、どのような保護策をとるのか？

応答：カイトが行なわれる時期場所の禁止事項を提示しながら、カイト販売店と協議していく。

2004年度事業計画

1）木曽岬干拓地チュウヒの繁殖地保護

自然公園化をめざして、愛知県の保護団体と共同で繁殖調査を継続する。現在、3つがい繁殖の可能性がある。高速道路北側でも繁殖行動が見られるが、付近に模型飛行機マニアが侵入し、飛行機を飛ばしており、繁殖が危ぶまれる。秋にはシンポジウム開催に取り組む。

2）北勢地方クマタカ繁殖地問題

今年の繁殖は失敗した模様。開発当事者と話し合いを進め、一部施設の閉鎖を申し入れる。委託繁殖調査を継続する。

3）中勢地方オオタカ繁殖地問題

今年も順調に繁殖する模様、工事担当者と話し合い、繁殖期をはずした工事を要請する。

4）五主海岸砂州撤去問題

アサリが不漁なため、砂州を撤去したいとの考えが、三重県から示された。当局と話し合う。アサリの不漁と砂州との因果関係の根拠について質す。

5）カイトセーリング問題

地元用具店と話し合いをしたが、依然としてシギ・チドリ生息環境を圧迫しているものと考えられる。現場に詳しい支部会員の意見を聞き対策を練りたい。

6）吉崎海岸遊歩道設置問題

楠町が遊歩道建設を予定している。シロチドリ繁殖の負担にならないよう、柵や看板の設置を申し入れる。

7）シロチドリ繁殖保護

豊津浦、町屋浦海岸で繁殖調査を行う。

質疑：木曽岬干拓地の問題で、当地はコチョウゲンボウの越冬地として重要だと思うが、県の土地利用の計画はどこまで進んでいるのか？

応答：県は運動公園を計画、その後流通基地にしたいらしい。

質疑：県は自然公園にする気は全然ないのか？

応答：県は考えていない。会としては全面的に自然公園にした方が良いと考えている。

◇企画部

2003年度事業報告

1）探鳥会　　59回開催、4回雨天中止　参加延べ人数1,020人

2）親睦会　　5月18日（日）総会終了後　37名参加

3）野鳥講座　　8月17日（日）「バンダーの世界」３２名参加
4）案内人研修会　本部が主催する研修会に、２名参加
5）講師派遣　　12月21日（日）　親子木工教室　松阪地区木材協同組合・ウッドピア

2004年度事業計画
1）探鳥会　別紙のとおり　　2）親睦会　総会後　3）野鳥講座　8月開催
4）案内人研修会　２～３名派遣したい

◇研究部

2003年度事業報告
1）シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査（春期、秋期、冬期）
環境省自然環境局野生生物課・(財) 世界自然保護基金ジャパン
2）三重県の委託事業「平成１５年度鳥獣保護区設定基礎調査」
（1）　調査内容：３調査地で、繁殖地と狩猟期の２回調査した。鳥類はラインセンサスや定点観察、哺乳類はフィールドサインや聞き取りで調査した。報告書にまとめ、県へ提出した。
（2）　調査結果：
○　鈴鹿市国府鳥獣保護区、鈴鹿市道伯鳥獣保護区、鈴鹿市飯野・玉垣銃猟禁止区域：３指定区域の中心に石垣池があり、中ノ島ではチュウサギなどのサギ類が繁殖するコロニーを形成し、カワウも多数繁殖していた。
○　玉城町鳥獣保護区：勝田池には、コガモをはじめ、マガモ、オカヨシガモ、ミコアイサなどのカモ類のほか、オオバンも飛来していた。
○　紀宝町・鵜殿村鳥獣保護区：カモ類を捕食するため猛禽類が時おり飛来するなど、比較的豊かな鳥類層を示していた。
3）三重県の委託事業「平成15年度ガン・カモ類一斉調査」
会員38名が、三重県内168箇所及び新規飛来地を１月中旬にカウント調査し、研究部で各県民局別に集計し報告した。
4）三重県の委託事業「生物多様性調査「鳥類」調査」
三重県産鳥類のレッドリストを作成するため、三重県内の鳥類（準備書記載種）を調査する。調査内容：データ収集整理　分類群別カテゴリー定義（案）の検討及び報告書の作成

質疑：シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査で、調査の回数は？
応答：５年周期で春・夏・冬の各時期に１～３回行なう。

2004年度事業計画
1）シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査（春期、秋期、冬期）
朝明川河口、鈴鹿川河口～鈴鹿川派川河口、田中川河口～豊津浦海岸、
志登茂川河口～安濃川、愛宕川～金剛川河口、櫛田川河口、外城田川河口
2）三重県の委託事業
平成15年度に「鳥獣保護区設定基礎調査」「ガン・カモ類一斉調査」「生物多様性調査「鳥類」調査」の３事業を受託しているので、平成１６年度も受託する方向で進める。
※質疑：シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査で、年３回それぞれ１～３回の調査では、移動中のシギ・チドリ類では実態がつかめないのではないか？
応答：WWFの方からの調査委託なので、その方向に従い調査している。
重要調査地は最低３回以上行なう。
質疑：五主海岸はどうか？
応答：別枠で調査が直接本会員に委託されている。

意見:保護活動の時にデータが必要なので、野鳥の会が把握していてほしい。WWFにデータの使用が可能かどうかを確認してほしい。

◇事務局　2003年度事務局報告

1）総会　5月18日（日）　三重県総合文化センター

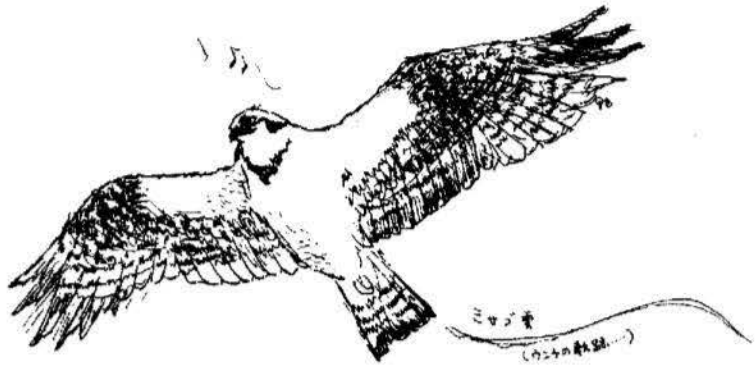
2）理事会　年間4回　うち1回は臨時　津周辺で開催

3）中部ブロック会議　6月14～15日希望荘（三重郡菰野町）本部＋13支部（計31名）

2004年度予算案　別紙のとおり

※質疑：会費収入だけでは、経費の約半分しか賄えないのか？

応答：不足分を販売事業収入などで補っている。



2004年度第1回理事会

日時：2004年5月23日（日）場所：三重県男女共同参画センター　出席：13名

1．提案、協議事項（事務局より）

①2004年度総会の打ち合わせ

②親睦会について（企画部）：参加希望者：約40名：会員同志の交流を図りながら、三重県支部をより発展させるための希望や意見等について話し合う。

③支部ネット通信について：本部が発行する「支部ネット通信」は、本部と支部間の連絡や支部相互間の連携強化等を目的として4月からスタートした。

④「しぜん文化祭in三重（仮称）」について：嬉野町ふるさと会館で、11月6日（土）に開催される。三重県支部としても参加することとし、出展についてはパネル等がすでにある木曽岬干拓地のPRなどで市川副支部長を中心に進める。

⑤三重県環境学習情報センター　活動紹介について:三重県環境学習情報センターでは月替りで各種団体の紹介を行っている。三重県支部としても展示等をする方向で検討する。

2．報告（事務局より）

①委託事業：鈴鹿市が本年1月から3年計画で「鈴鹿の自然」について報告書を作成する。

②クマタカ生息委託調査の情報公開について：生息調査の内容を公開してほしいと自治体へ問合せがあったが、当該自治体は公開しないということで回答した。

③密猟パトロールおよびシンポジュウムについて

④和具大島、松名瀬海岸の保護について

⑤コピー機購入について　（レーザコピー機を購入）

⑥備品台帳について　三重県支部として持っている備品の一覧を作成した。

（文責：西村）

2004年度一般会計予算

上段＝予算、中段＝注釈、下段＝2003年度実績

日本野鳥の会　三重県支部

収入の部　一般会計

支部会費	766,000
	2000円×383名
	780,000
受取寄付金	11,000
	16,769
受取補助金	60,000
	75,000
受取利息	40
	39
雑収入	20,000
	広告収入
	2,259
収入合計①	857,040

特別会計

販売事業	800,000 ×15%	120,000
動植物調査	245,000 ×15%	36,750
ガンカモ	304,500 ×15%	45,675
鳥獣保護	304,000 ×15%	45,600
絶滅種保存	500,000 ×15%	75,000
REDデータ	682,500 ×15%	102,375
収益合計②		425,400

③ 総収入合計　1,282,440

支出の部

	総会費	理事会費	事務局費	支部活動費	支部報費	対外費	研修費	部長会議費	密対連シンポ	合　計
支払調査費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	11,000	0	0	0	0	0	11000
講師謝礼費	0	0	0	30,000	0	0	0	0	0	30000
	0	0	0	30,000	0	0	0	0	0	30,000
通信費	45,000	4,000	150,000	15,000	170,000	0	0	0	0	384,000
	50,200	4,090	166,410	13,130	168,620	0	0	0	3,490	405,940
印刷費	12,000	4,000	5,000	13,000	140,000	0	0	500	0	174,500
					600部×4回					
	12,570	5,500	8,580	14,722	141,672	0	0	200	0	183,244
消耗品費	0	0	100,000	15,000	60,000	0	0	0	0	175,000
			コピー機5万円、印鑑1万円		印刷封筒2000枚					
	392	4,090	56,974	14,555	34,391	0	0	0	0	110,402
会場費	12,000	4,000	0	10,000	6,000	0	0	2,000	0	34,000
	11,800	3,050	0	6,580	5,800	0	0	1,140	0	28,170
会議費	0	0	0	10,000	0	6,000	0	0	110,000	126,000
				交流会					5名参加	←中部ブロック15年度
	0	0	0	0	0	6,000	0	0	183,440	189,440
旅費交通費	0	38,000	0	75,000	0	40,000	70,000	10,000	10,000	243,000
		2000円×19名		本部より視察費30000円		密対連・中部ブロック参加費	35000円×2名			
	610	38,000	700	40,910	0	36,380	38,260	5,000	0	159,860
賠会費	0	0	0	0	0	20,000	77,260	0	0	97,260
						年会費	参加費38630円×2名			
	0	0	0	0	0	19,000	0	0	0	19,000
雑費	70	0	1,000	1,000	1,000	210	630	0	0	3,910
	70	10	912	805	1,015	210	315	0	130	3,467
交際費	0	0	4,000	2,000	0	0	0	0	0	6,000
	0	0	14,320	1,470	0	0	0	0	0	15,790
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				書籍						
	0	0	0	21,610	0	0	0	0	0	21,610
一般予算合計	69,070	50,000	260,000	171,000	377,000	66,210	147,890	12,500	120,000	1,273,670
										−416,630

総収入(1,282,440) − 一般予算合計(1,273,670) = 8,770円

支部活動費・・・企画部・地区活動費・研究活動費・保護活動費
対 外 費 ・・・中部ブロック・密対連・干潟を守る日・野生ネット等

2004年度事業計画

	地区別探鳥会					その他行事	
	北勢地区	伊賀地区	津地区	松阪地区	南勢地区	理事会・総会	企画・編集
4	4/4(日)藤原岳 4/24(土)県民の森 4/25(日)木曽岬	25(日)青山愛宕神社		9(金)元丈の里 24(土)櫛田川河口	13(火)五桂池 25(日)五十鈴川河口	23(日)総会	
5	4(日)鈴鹿川中流 8(土)御池岳 23(日)木曽岬		16(日)青山高原	2(日)有馬	5(水)五十鈴川早朝 7(金)二見町松下 30(日)鍛治屋峠		
6	1(火)海蔵川 27(日)木曽岬	13(日)赤目滝と曽爾高原		5(日)美杉	3(木)五十鈴川	密猟パトロール	しろちどり発行
7	25(日)木曽岬				1(木)五十鈴川		
8	22(日)木曽岬 29(日)高松海岸						野鳥講座
9	14(火)海蔵川 25(土)多度山 26(日)木曽岬		12(日)五主			11～12中部ブロック会議	しろちどり発行
10	24(日)木曽岬	17(日)気屋戸橋	24(日)町屋海岸	2(土)飯高スメール	3(日)五十鈴川河川敷(タカ渡り)		
11	16(火)海蔵川 27(土)県民の森 28(日)木曽岬	28(日)服部川河川敷		14(日)熊野川河口	4(木)五十鈴川 7(日)ルネッサンスの森 21(日)浜島港		
12	26(日)木曽岬		23(日)安濃ダム		2(木)五十鈴川 5(日)穴川(交流会)	11～12密対連シンポジュウム	しろちどり発行 交流会
1	23(日)木曽岬	30余野公園		23(日)鈴の森	27(木)外城田川		
2	6(日)木曽三川 27(日)木曽岬	27(日)月ヶ瀬無限峡	20(金)階楽公園		3(木)五十鈴川 6(日)五十鈴公園		
3	1(火)海蔵川 6(日)石垣池 27(日)木曽岬			19(土)雲出川中流	3(木)五十鈴川 11(金)宮川中流		しろちどり発行

支部活動の記録

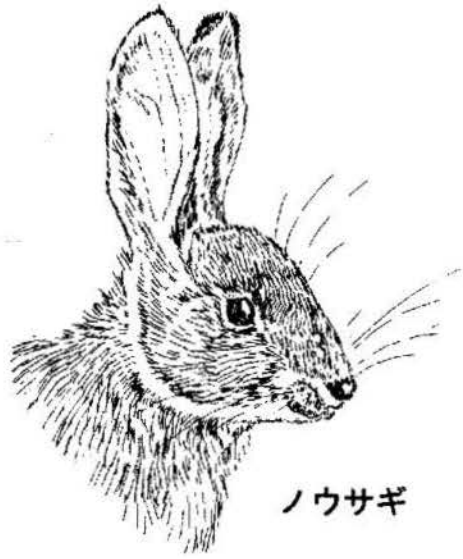
事務局まとめ

●支部活動の記録（2004年５月～７月）

5/14　和具大島の件で志摩町教育委員会へ
5/15　会計監査・木曽岬干拓地について意見交換会
5/20　松名瀬海岸の堤防工事で国交省と打ち合わせ
5/21　総会用資料印刷
5/23　2004年度総会／親睦会・第１回理事会開催
5/27　安濃川提言を関係機関へ提出（保護部）
6/2　警察・行政との三者合同による密猟パトロール
6/5~6　密対連実行委員会・小鳥店調査
6/9　南勢町東部鳥獣保護区等設定に係る意見書提出（全４通）
6/11　探鳥会案内印刷作業
6/12　尾鷲市中村山鳥獣保護区設定に係る意見書提出
6/14　支部報「しろちどり」第43号発行・発送作業
6/15　野代銃猟禁止区域等設定に係る意見書提出（全６通）
6/18　密猟パトロール（南勢地区）
6/23　芸濃町北部休猟区等設定に係る意見書提出（全２通）
6/29　密猟パトロール（南勢地区）
7/2　密猟シンポの後援依頼のため支部長と県へ
7/3　水鳥保護確認のため御殿場海岸へ
7/5　佐奈川の河畔林整備のため現地下見

7/7　上野市沖・市部鳥獣保護区等
　　設定に係る意見書提出（全2通）
7/8　佐奈川で国交省と打ち合わせ
7/12　密猟パトロール（南勢地区）
7/14　松名瀬海岸で国交省と打ち合わせ
7/24　保護部会開催
7/27　密猟パトロール（南勢地区）

●これからの活動（2004年8月～10月）
8/22　野鳥講座
9/11~12　中部ブロック会議（静岡）へ参加予定
9/　支部報「しろちどり」第44号発行予定
10/31第2回理事会開催


ノウサギ

五主海岸の砂州撤去問題について

保護部

7月24日保護部会に先立ち、三重県商工部水産基盤室主幹 遠藤晃平氏、および村田直文氏に来ていただき、説明を受けました。

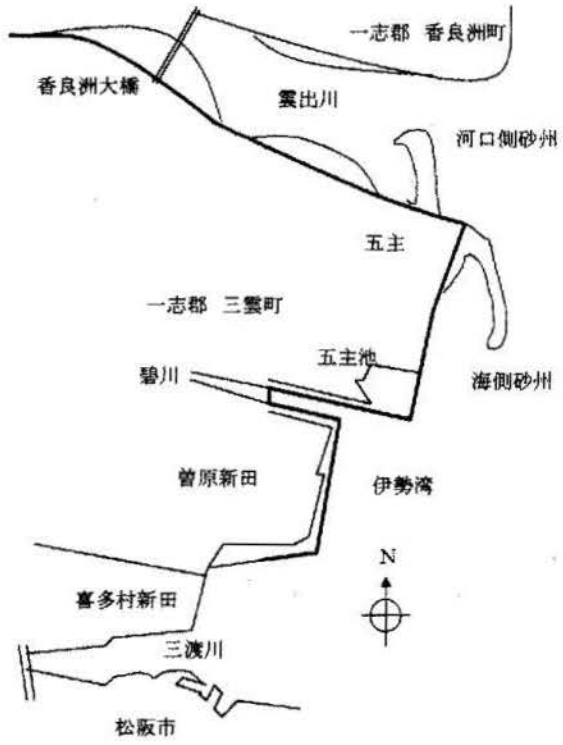
（説明）松坂漁協（三雲＋松阪が合併した）からあさりの漁獲量が減っているとして要請があった。五主海岸雲出川河口、三渡川河口付近はあさりと青海苔の漁場であるが、雲出川河口および海側に砂州ができて、海側砂州のポケット部分は海水の循環がないため、汚れている。当面海側の砂州をなんとかしたい。堤防側に砂を移動して遠浅にするか、あるいは砂州の一部を切り、外洋水を入れることを考えている。国の予算を取り、17年度から着工したい。

また三渡川河口は海水の移動が少なく、汚れている。みお（潮道）を掘り、海水の出入りを促進したい。なお河口側の砂州は香良洲漁協の海域で、行政の担当も違うので当面改変の予定はない。

（質疑など）これに対し、漁獲量の変化や砂州を改変した場合の予想される漁獲量の増加などを聞いたが、調査中であるとのことで、回答はえられなかった。また伊勢湾全体であさり漁獲量がへっているのではないかという点についても調査中とのことであった。これでは初めに工事ありき、という態度ではないかとの疑問も出された。

（工期などについて）砂州を堤防側に移動であれば、2, 3年で数億かかる。砂州の一部を切るだけなら半月もあればよい。冬は海苔の時期と重なりできない。夏にやりたい。（支部側）それなら　7月から8月15日くらいまでであろう。

支部側から砂州を切るだけであればあまり問題はないであろう。全面的に移動させるとなると、シギ・チドリへの影響を評価すべきである。との意見がだされた。



中勢地方工事区域でのオオタカのヒナ保護について

保護部

保護部では中勢地方のオオタカ繁殖地内で行われている工事のため、繁殖観察を継続していました。1月20日以降、営巣地での生息や、交尾行動が観察され、5月29日まで生息し、繁殖行動を継続しているものと推定されていました。
6月12日支部保護部員2人でヒナの育ち具合を調査するため、工事予定地域にあるオオタカの巣に近づいたところ、巣は地上に落ちており、下に生きているヒナ2羽とヒナの死体1羽がありました。おそらく11日に通過した台風4号崩れの低気圧による風雨で落ちたものと想定されます。オオタカは落ちたヒナを育てることはないため、落ちたヒナ2羽を保護し、久居の高橋獣医（副支部長）に持参し、飼育を依頼しました。一羽は脚に少し異常があったが、ヒナは目立った外傷もなく、与えられた餌のウズラを元気に食べました。その後高橋獣医の世話で2羽とも順調に成長しました。大きさからオスとメスであろうと推定されました。7月25日中勢地方の営巣地とは別の場所で放鳥しました。なおオオタカの保護飼育に関しては環境省の許可を得ています。（これについては中日新聞で報道され、ケーブルテレビで放映の予定です）。

支部では工事の影響を調べるため、この営巣地のオオタカの観察を続けています。同一の巣でこれまで少なくとも2年間連続して繁殖を成功させ、2002年には3羽、2003年には1羽のヒナを巣立ちさせています。

五主海岸　カイト問題

保護部

谷本前保護部長が地元カイト店ジャイブとの間で雲出川河口内（五主側の先端と香良洲側堤防の先端を結んだ線より、西側）には入らないとの合意がされている。しかし、風に流されて河口内に入るなど、まだ問題は解決されていない

保護部としては「この地域雲出川河口、金剛川河口の海域はシギ・チドリにとって非常に重要な中継地である。（シギ・チドリの渡りの時期；3月から6月、秋8月から10月末）カイトは好ましくない」との支部の態度を明らかにするべきだと提案します。
それに伴い、この海域で海岸に入るその他のレジャーについても態度を明らかにする必要があります。：潮干狩りについてはこれまで長い歴史があり、貝を取る人は鳥に無関心であり、また移動速度も極めて遅く問題ないと考えます。
海岸に入って行う写真撮影について「堤防からだけ、あるいは堤防から１０ｍ（ある程度の距離）までに限る」とする撮影基準を支部の態度として表明すべきであると考えます。
保護部としてはこのような結論ですが、支部会員の意見を求めます。支部会員の意見を求めた上で理事会などで合意したいと考えます。

保護部長平井正志、あるいは保護部員までお寄せください。住所連絡先は最終ページ奥付にあります。

密猟パトロールに取り組んで

林　　淳子（伊勢市）

今年は12月11日～12日に「第12回野鳥密猟問題シンポジウム」全国大会が三重県支部主管で伊勢市に於いて開催されます。

支部では密猟パトロールを十数年前から南勢地区会員有志により、伊勢市や南勢町の山林などで実施してきました。2001年より伊勢警察署生活安全課、南勢志摩県民局生活環境森林部、鳥獣保護委員、日本野鳥の会三重県支部による合同パトロールを行っていますが密猟者は後を絶ちません。密猟者はトリモチを塗った棒を仕掛け、オトリメジロやメジロの声を録音したカセットテープ等でメジロをおびき寄せて密猟します。

一昨年の密猟者は一人で23羽ものメジロを密猟していました。昨年はメジロの密猟はなかったものの、オオルリの密猟が3件もありました。今までの密猟現場ではメジロばかりだったのでオオルリの密猟現場に出会った時には驚きました。オオルリの幼鳥2羽がトリモチ棒にかかり羽をばたつかせていた姿は痛々しく、残虐な行為です。
年1回の合同パトロールですが毎年2，3ヶ所の密猟現場に出会います。今年も2ヶ所でメジロの密猟が行われていました。もっとパトロール回数

を増やしたいのですが早朝のため、関係者との調整に苦慮しています。

そこで、今年は「密猟問題全国大会」も支部主管で開催されるのを契機に密猟パトロールを南勢地区会員有志で頑張ってやろうという事になり、伊勢警察署生活安全課にパトロールの注意点などを確認し、三重県支部単独の密猟パトロールを毎月２回以上行うことにしました。6月のパトロールでは「密猟１１０番」のポスターを今までの密猟現場の木に掛けながらパトロールをしましたが、２週間前の合同パトロールでメジロの密猟者の検挙があったばかりなのにまた、メジロの密猟現場に出会いました。密猟者は２名でした。7月のパトロールでは密猟者には出会わなかったが「密猟１１０番」のポスターが引きちぎられていたり、カスミ網の痕跡だと思われる樹木の切り口も生々しいのがあったりで依然として密猟が行われている様子が伺えました。新しいポスターを木に掛け、パトロールが日常的に行われている事を知らせ、密猟者達に警告していきます。

密猟に関して問題なのは小鳥販売店です。密猟者の話を聞くと密猟した鳥を小鳥販売店に持ち込むルートもあるようです。

会員の皆様にお願いします！小鳥販売店で野鳥を売っているのを見かけたら事務局まで連絡してください。地区の県民局生活環境森林部に連絡してください。伊勢市では、会員の協力により小鳥販売店への行政指導が３件ありました。又、毎年本部から小鳥販売店の調査をお願いしていますが、もっともっと多くの方の協力が必要です。

南勢地区会員有志による密猟パトロールは毎月行っています。時間は午前６時から10時ごろまでです。協力していただける方は事務局まで連絡してください。

よろしくお願いいたします。

第12回野鳥密猟問題シンポジュウムｉｎ三重

□日時：平成16年12月11日（土）午後1時～12日（日）正午まで

□会場：伊勢青少年研修センター（宿泊も同じ）

住所：〒516-0024 伊勢市宇治今在家町153　TEL0596-25-0265（代表）

テーマ：「いまこそ、野の鳥は野に！」

11日　＊全国各地から密猟状況の報告＊全国の野鳥販売実態について

＊野鳥識別講座（メジロ、オオタカ）＊夕食～懇親会

12日　＊早朝探鳥会（自由参加）　五十鈴川周辺・伊勢神宮　＊三重県の密猟防止対策

＊全国一斉野鳥販売実態調査報告　＊密猟防止対策・ノウハウ（情報募集中！）

プログラムについては変更する場合があります

□参加費：①11日～12日（会議＋1泊2食＋懇親会）　10,000円

②11日終日　（会議＋夕食＋懇親会）　5,000円

③会議のみ　（11日　or　12日）　2,000円

学生は会議費が無料ですので学生証をご持参ください。

□申し込み先：日本野鳥の会三重県支部

〒519－0405　三重県度会郡玉城町日向355－1　西村泉まで

izu-n@theia.ocn.ne.jp　TEL／FAX　0596－58－3906　携帯 090-1566-6010

□申し込み締め切り：11月20日（土）

□問合せ先：全国野鳥密猟対策連絡会　事務局

〒616－8211 京都市右京区常盤御池町21－4　TEL／FAX　075－864－0777

□主催：全国野鳥密猟対策連絡会、（財）日本野鳥の会

□主管：日本野鳥の会三重県支部

親睦会を行いました！

総会終了後、同じ会場で開かれた親睦会に、35名が参加しました。今回の親睦会は、会員同志の交流を図りながら、三重県支部に対する意見や要望を話し合うというもの。6つのテーブルに分かれて、様々な話題で盛り上がりました。まとめは、次のとおりです。

○　地区別による会員間の交流や仲間意識をもつために、名簿公開や交流会、勉強会を行ってほしい。若年層の発掘も重要だ。

→　日本野鳥の会としては名簿の公開はしていないので、検討するには時間が必要。交流会や勉強会はできる限り行う。若年層発掘のためのアイディアをよせてほしい。

○　探鳥会は、気軽に出かけられる場所（交通の便の良い所）にしてほしい。会員になれば、探鳥会へ出かけなければいけないというプレッシャーを感じた。新入会員に対してウェルカム探鳥会など開き、きめ細やかな対応をしてほしい。自己紹介ＰＲや休眠会員の掘り起こしが必要。

→　公共交通機関を利用しやすい探鳥会を企画する。新入会員・休眠会員への対応を検討する

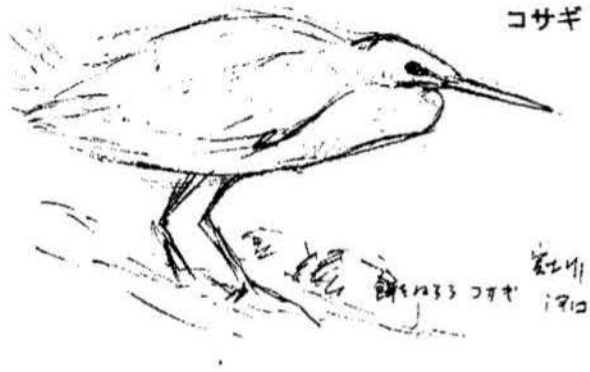
○　県内のフクロウ生息調査をしてはどうか？入会時にアンケート（特技）をとっては？

→　研究部員が不足している。今後検討していきたい。

○　他に、ホームページを大々的にピーアールしたり、探鳥会や勉強会のお知らせをメールで配信してほしいなど要望がありました。また、新入会員が会にとけこめないのは、システムに問題があり、地区のあり方や地区長の定義・役割を明確にしてほしいなど辛辣な意見も出ました。

今後は、これらの意見・要望を参考にしていきたいと思いますが、会の運営はボランタリーな活動によって支えられていますので、会員一人ひとりの理解と協力が不可欠です。できる範囲で会に協力していただけることがあれば、事務局までご連絡お願いします。

（文責：西村　泉）



理事紹介（伊賀地区）

前澤昭彦さん（研究部長）

大阪弁に近い軽妙な語り口で、いつも朗らかな前澤さんは、研究部長として様々な調査や資料作成をしておられます。普段は学校の先生ですが、休日ともなれば熱心な鳥類研究者となり、昨年から県のレッドデータブック作成のため、僻地や離島へ出かけることも多く忙しい日々が続いています。

塗矢尋一さん（伊賀地区長）

野鳥観察のほかに、社交ダンスもされるそうで、意外な一面のある塗矢さん。伊賀地区長として地区をまとめてみえます。積極的に探鳥会を企画され、頼まれごとも気安く引き受けてくれる貴重な存在です。

西口章一さん（理事）

律儀で、几帳面な印象の西口さんですが、最近はご無沙汰ぎみ。伊賀地区のご意見番のような存在で、理事会では鋭い質問をされます。昨秋は、上野森林公園探鳥会でリーダーをされましたが、今年はどうでしょうか？　（以上：西村　泉）

田中豊成さん（理事）

「田中君外ばっかり見てるけど何を見てるんや？」・・「ハイ！！鳥をみてました」小さい頃から鳥と絵が大好きな田中少年は学校も芸大へ入り直すほどだったそうな、私が知ったのは10年くらい前の野鳥観察会だったと思うが藪の中から一瞬出た鳥を「シロハラ」や！と同定した彼の一言、そして裏づける特徴の説明、私はあの時以来彼の感性にはほとほと感心しています、博多育ちの才女を娶り二女の父も五十路を迎えた。体をいたわりつつがんばってや！！　（小林達也）

探鳥会報告　　2004年3月～5月

● 春の海辺のまわりで里山の鳥に出会う探鳥会
2004年3月7日（日） 9:30-11:30
度会郡二見町江
中村りつ子・西村　泉　　参加者13名（内会員11名　会員外2名）
カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、ケリ、クサシギ、イソシギ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、キジバト、カワセミ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　35種類

海が荒れていて、満潮だったので、常にいる海辺の鳥があまり見られなかった。里山では、多数の鳥が見られた。風が強くて寒い冬日だったので、駐車場から里山までの歩きが、大変だった。

● 木曽岬干拓地探鳥会
（共催　愛知県野鳥保護連絡協議会）
2004年3月28日（日） 9:00-12:00
三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地
近藤義孝　　参加者18名（内会員13名　会員外5名）
カイツブリ(10)、カワウ、(2000)、ダイサギ(2)、コサギ(2)、アオサギ(3)、カルガモ(35)、コガモ(32)、オカヨシガモ(30)、キンクロハジロ(17)、ミサゴ(3)、トビ(3)、オオタカ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(3)、チュウヒ(3)、キジ(4)、コチドリ(1)、ケリ(20)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、キジバト(20)、ヒバリ(20)、ハクセキレイ(6)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(3)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(20)、ウグイス(1)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(1)、ホオアカ(1)、オオジュリン(3)、カワラヒワ(1)、スズメ(60)、ムクドリ(16)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(30)、ドバト(40)　38種類

20℃の気温の中でもツグミやオオジュリンなどの冬鳥はまだ残っていた。3月いっぱいで木曽岬干拓地のアセスメントも終わり、新年度には準備書が提出される。貴重な野鳥たちが保護されることを望みたい。

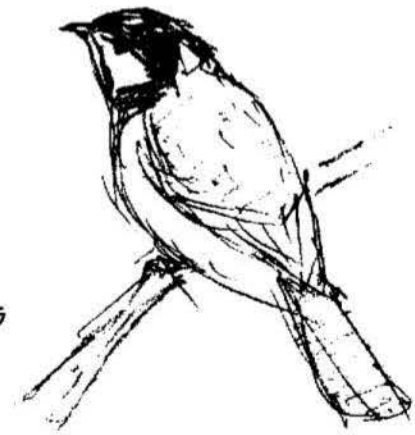
● 藤原岳山麓探鳥会
2004年4月4日（日）
加藤光広・藤田克三
雨天のため中止。

● 元丈の里探鳥会
2004年4月9日（金） 10:00-12:00
多気郡勢和村波多瀬
深田千鶴子・中村洋子　参加者16名（内会員14名　会員外2名）
カワウ、アオサギ、トビ、チョウゲンボウ、ケリ、キジバト、アマツバメ、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　25種類

やさしい柔らかな芽吹きの緑の烏岳（545 m）を眺めて、里山やその周辺の田畑で鳥の声を聞き、水生昆虫やいろいろな野草の観察が出来た。春の自然を満喫できた。

● 五桂池探鳥会
2004年4月13日（火） 9:30-11:30
多気郡五桂、栃ヶ池周辺
小坂里香・西村　泉　　参加者18名（内会員15名　会員外3名）
カイツブリ(4)、カワウ、ダイサギ(1)、カルガモ(2)、コガモ(22)、キンクロハジロ(2)、トビ(2+)、サシバ(2)、コジュケイ(S)、カワセミ、コゲラ(1+)、ツバメ、ヒヨドリ、シロハラ(3)、ウグイス(S)、エナガ(C)、ヤマガラ(S)、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル(S)、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　25種類

好天に誘われ、平日にもかかわらずそこそこの参加者がありました。鳥の姿は少なかったけれど、新緑の中、アケビの花などをめでながらの散策を楽しんでもらえたとおもいます。季節柄、サシバの姿が見られたのは収穫でした。



シジュウカラ

● 櫛田川河口探鳥会

2004年4月24日（土） 10:00-12:00

愛宕川～金剛川～櫛田川河口まで

中村洋子・福島由美子　　参加者14名（内会員12名　会員外2名）

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ミサゴ、トビ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、セグロカモメ、ツバメ、ハクセキレイ、ツグミ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　　25種

天候が悪く（強風）寒かったので、小鳥が飛ばず、下見の時には愛宕川に、タシギ類が多く見られたのに1羽もいなかった。また愛宕川、金剛川合流点にチュウシャクシギがウジャウジャいたのにたった数羽しかいずコチドリも下見の時にはいたが1羽も見られず残念。とにかくスコープが倒れるほどの強風であった。

● 県民の森探鳥会

2004年4月24日（土） 9:30-12:10

三重郡菰野町菰野千草

矢田栄史・辻　秀之　　参加者32名

ノスリ(2)、ツツドリ(1)、コゲラ、ツバメ、ビンズイ、サンショウクイ(3)、ヒヨドリ、ルリビタキ(1)、シロハラ、ヤブサメ(1)、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ(2)、コサメビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、シメ、ハシブトガラス　24種

探鳥会へ初参加の人が10名ほどみえた。最初にこの時期の鳥達はほとんどが繁殖に入るころで、そのために種類によっては、渡りをしてはるばる南の方からやってくるということなどを説明する。一回で終わらずできれば定例的に季節ごとの動きも見ていきたいものです。鳥以外ではトンボ（ヤマサナエか）とアオスジアゲハを今年初めて見つけた。新緑がまぶしい森でした。

● 青山愛宕神社探鳥会

2004年4月25日（日） 10:00-12:00

名賀郡青山町

前澤昭彦・塗矢尋一　　参加者11名（内会員8名　会員外3名）

オオタカ(1)、キジバト(2)、アオゲラ(2)、ツバメ(8)、キセキレイ(1)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(2)、ミソサザイ(6)、ツグミ(1)、ヤブサメ(1)、ウグイス(12)、オオルリ(8)、ヒガラ(3)、ヤマガラ(4)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(1)、イカル(1)、ムクドリ(1)、カケス(1)、ハシブトガラス(1)　20種

今の季節にしては少し寒くて鳥のほうが出てこなかったので少し残念でしたが、オオルリとミソサザイは確実でしたのでよかったと思う。又ミソサザイが卵を温めている最中でした。

● 木曽岬干拓地探鳥会

（共催　愛知県野鳥保護連絡協議会）

2004年4月25日（日）

三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地

近藤義孝・村田芳雄　　参加者13名

カワウ、(1000)、ゴイサギ(5)、ダイサギ(3)、チュウウサギ(1)、コサギ(4)、アオサギ(2)、カルガモ(12)、コガモ(100)、ハシビロガモ(1)、キンクロハジロ(10)、ミサゴ(1)、チュウヒ(3)、キジ(10)、コチドリ(7)、ムナグロ(2)、ケリ(30)、ウズラシギ(3)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、チュウシャクシギ(14)、キジバト(4)、カワセミ(2)、ヒバリ(10)、ツバメ(7)、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ(120)、クロツグミ(1)、ツグミ(4)、オオヨシキリ(1)、セッカ(10)、カワラヒワ(4)、スズメ(60)、ムクドリ(6)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(10)、ドバト(1)　36種類

カモ類:ツグミなどの冬鳥が残っているところへツバメ・オオヨシキリがやってきている。また、ムナグロ・ウズラシギ・チュウシャクシギも羽を休めたり、えさをとっていた。

● 五十鈴川河口探鳥会

2004年4月25日（日） 9:30-11:30

伊勢市一色町

山田昭子・今村　禎　　参加者11名（内会員10名　会員外1名）

カワウ

カイツブリ(17)、カワウ、ダイサギ、コサギ(2)、アオサギ、マガモ(2)、カルガモ(6)、コガモ(23)、オナガガモ、キンクロハジロ、ミサゴ(1)、トビ、バン、ケリ、イソシギ、チュウシャクシギ(13)、タシギ、ユリカモメ、ツバメ、ハクセキレイ、モズ、ツグミ、オオヨシキリ、セッカ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　　30種

冬鳥、夏鳥、渡り鳥、全部が混ざって見ることができ、人間の感じる季節、鳥達が感じる季節、さまざまな季節があるのだと思った。

● 熊野市有馬探鳥会

(共催　熊野自然を考える会)

2004年5月2日(日)　9:00-12:00

熊野市有馬町

中井節二・保平長三　　参加者26名　(内会員16名　会員外10名)

アマサギ、チュウサギ、アオサギ、コガモ、トビ、キジ、コチドリ、ムナグロ、キョウジョシギ、サルハマシギ、タカブシギ、イソシギ、タシギ、ツバメ、モズ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト

20種

遠くから、サルハマシギを見るために、参加してくれた人が多かったです。途中から雨が降ってきて大変だった。

● イカルチドリの観察探鳥会

(共催　視全感察快(会))

2004年5月4日(火)　9:30-12:00

亀山市御幸町～東御幸町

楢原　藁・伊藤多紀子　　参加者11名　(内会員10名　会員外1名)

カイツブリ(*)(1)、カワウ(1)、ダイサギ(2)、アオサギ(1)、カルガモ(1)、コジュケイ(*)(2)、キジ(3)、コチドリ(1)、イカルチドリ(5)、ケリ(3)、キアシシギ(3)、イソシギ(2)、キジバト(1)、カワセミ(*)(1)、ヒバリ(3)、ツバメ(3)、セグロセキレイ(4)、ヒヨドリ(1)、モズ(*)(1)、ツグミ(2)、ウグイス(*)(3)、オオヨシキリ(*)(1)、セッカ(4)、シジュウカラ(*)(1)、ホオジロ(5)、アオジ(1)、カワラヒワ(2)、スズメ(6)、ムクドリ(*)(1)、ハシブトガラス(5)、ジシギ(SP)(6)　(*)印：声のみ　31種

① 農業用水取水のため、砂の移動が行われ、近くでのイカルチドリの観察を充分行えなかった。

② 多種類の鳥類を少し移動するだけで観察でき、参加者は満足できたと思う。又河畔林や川の蛇行(環境)と種の多様性を感じてもらえたと思う。

③ 昨年の観察会のあと、国土交通省の出張所に、取水のための砂の移動を、イカルチドリの繁殖期よりそうとう早く行うよう申込んだが実行されていなかった。

● 早朝探鳥会

2004年5月5日(水)　6:00-9:00

伊勢市今在家五十鈴川周辺

林　淳子・加島隆子　　参加者17名　(内会員14名　会員外3名)

カワウ、コサギ、アオサギ、カルガモ、サシバ、コジュケイ、キアシシギ、イソシギ、キジバト、ヒメアマツバメ、アマツバメ、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　28種類

曇り空の中での早朝探鳥会。オオルリの囀りも姿もゆっくり観察できたがきれいな色がはっきりせず残念だった。五十鈴川上流部でキアシシギ1羽が初確認された。

● 初夏の海辺の里山での探鳥会

2004年5月7日(金)　9:00-11:30

度会郡二見町江

中村りつ子・西村　泉　　参加者18名　(内会員15名　会員外3名)

カワウ、アオサギ、カルガモ、トビ、イソヒヨドリ、チュウシャクシギ、キジバト、ヒメアマツバメ、アオゲラ、ツバメ、コシアカツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　　23種類

朝からの快晴で開催時間にはすでに外気温が高くて朝から鳴いていた野鳥達がコースにいなくなってしまい、もっと早朝の探鳥会でないと参加者に申し訳ないと思った。河の橋げたにコシアカツバメの巣が有るらしく白と赤とが入り混じって飛び廻っていてよかった。

オオタカ幼鳥

探鳥会報告・編集後記

● 御池岳探鳥会

2004年5月8日(土) 8:40-14:00

いなべ市藤原町鈴鹿山脈御池岳周辺

村田芳雄・近藤義孝　　参加者5名(内会員5名　会員外0名)

キジバト、ジュウイチ、ツツドリ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス　18種

カタクリ峠で昼食をとった後、ジュウイチの鳴き声がして緑浅い樹冠の間を縫って飛ぶ、ジュウイチの姿を見ることが出来ました。又下山途中、鳴いているオオルリの姿を探したりしました。

● 朝明渓谷探鳥会

2004年5月9日(日)

川口久美　　雨天のため中止。

● 青山高原探鳥会

2004年5月16日(日)

平井正志・坂口　守　　雨天のため中止。

● 木曽岬干拓地探鳥会

(共催　愛知県野鳥保護連絡協議会)

2004年5月23日(日) 9:00-12:00

三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地

米倉　静・(近藤義孝)　　参加者16名(内会員11名　会員外5名)

カワウ(20)、ゴイサギ(5)、アマサギ(5)、ダイサギ(4)、コサギ(6)、アオサギ(5)、マガモ(3)、カルガモ(22)、ミサゴ(3)、キジ(15)、コチドリ(1)、ケリ(30)、キアシシギ(7)、イソシギ(2)、チュウシャクシギ(2)、コアジサシ(5)、キジバト(8)、ヒバリ(30)、ツバメ(20)、ハクセキレイ(3)、ヒヨドリ(2)、オオヨシキリ(10)、セッカ(20)、カワラヒワ(7)、スズメ(100)、ムクドリ(15)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(15)、ドバト(7)　29種類

愛知県支部の担当者である米倉静香さんに今回は三重県支部のお世話もしていただきました。

● 鍛冶屋峠探鳥会

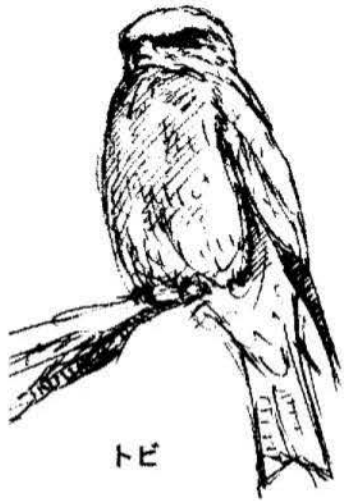
2004年5月30日(日) 8:30-11:30

伊勢市横輪町

吉井瑞穂・山田昭子　　参加者13名(内会員11名　会員外2名)

トビ、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、オオルリ(S)、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、カケス、ハシブトガラス　15種

全体に鳥が少なく、お目当てのオオルリの声も帰り道になってやっと聴くことが出来た。



トビ

紙面の都合により、6月の探鳥会報告は次号に掲載します。(編集部)

編集後記

ホトトギスの鳴き声ももう終わり、ツクツクボウシが鳴いている。道路脇の藪ではノリウツギが白い花を咲かせている。まだ残暑は続くが、夏が終わろうとしている。今年の秋はどんな発見にであうのか楽しみ、我々の支部報しろちどり編集も軌道に乗って来た。

もっと多くの人に読んでもらいたい。支部会員の皆さんからの投稿も是非お願いしたい。　(MH)

しろちどり　44号

2004年9月1日発行

題字：　濱田　稔

表紙絵：　田中豊成

カット：　平井正志・小坂里香

編集：平井正志　〒514-2325

安芸郡安濃町田端上野910-49

発行所：日本野鳥の会三重県支部

杉浦邦彦方

〒516-0026　伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷：伊藤印刷株式会社

〒514-0027　津市大門32-13